

(6) 鉱・工業・エネルギー

① 鉱・工業生産指数 1970 = 100

項目	年	(単位:%)							
		1960	1965	1971	1973	1974	1975	1976	1977
総合(建設を除く)									
鉱業									
製造業									
電気・ガス・水道									
建設									

出所:国連

② 鉱業生産

品目	年	単位	1973	1974	1975	1976	1977	備考
石炭		1000 t	15	13	15	18	27	
*1 原油		1000 t	968	6,773	7,094	8,584	10,950	
天然ガス		100 万 m <sup>3</sup>	140	5,566	7,656	10,000		
マンガン		1000 t						
鉄		1000 t						
*2 銅		1000 t	0.0	78	40	90		
*7 亜鉛		1000 t	3.8	2.9	2.6			
錫		t	580	557	598	750	866	
*3 ニッケル		t	19	32	9			
ボーキサイト		1000 t						
クロム		kg						
金		t	26	*6 23	*6 25	23		
*4, 5 燐		1000 t						
タンガステン		t	667	575	505	332	568	
鉛		1000 t	10.3	*8 9.8	*8 10.5	3.8		
アンチモニー		t		166	540	570		

\*1 生産高のものと数字は容積単位である \*5 表示された年の6月30日における12ヶ月 出所:国連  
 \*2 銅マットに含有されるもの \*6 資料:金鋼鋼体株式会社(フランクフルト)  
 \*3 スパイスの含有量 \*7 精鉱に含有されるもの  
 \*4 精煉された銀 \*8 資料:合衆国鉱山局

③ 原材料消費

品目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977	備考
銅		1000 t	113			115	96		
錫		t	...	...	...	...			
ゴム		1000 t	...	...	...	...			
合成ゴム		1000 t	...	...	...	...			
綿花		1000 t	15.2	14.1	11.9	13.0	14.1		
羊毛		100 t	...	...	...	...			

出所:国連

④ 主要資源埋蔵量

品目	年	単位	埋蔵量			備考
			1975	1976	1977	
石炭		100 万 t				
経済状態埋蔵量		1000 t				
付加的資源		1000 t				
原油		100 万 t				
天然ガス		10 億 m <sup>3</sup>				
天然ウラン		1000 t				

⑤ 工業生産

品目	年	単位	1973	1974	1975	1976	1977	備考
*1 煙草		100 万本	1,512	1,355	1,763			
生糸		1000 t						
毛織物		100 m <sup>2</sup>						
*2, 3 綿糸(純)		1000 mt	6.5	6.7	12.2	13.2	15.5	
綿織物(純交織)		100 万 m	28	...	...			
ガソリン		1000 t						
重油		1000 t						
灯油		1000 t						
錫		t						
亜鉛		1000 t						
アルミニウム		1000 t						
銅		1000 t						
鉄鋼・合鉄		1000 t						
粗鋼		1000 t						
セメント		1000 t	193	172	184			
*4 自動車		1000 台	(乗) 1.0	0.0	0.0			
*5 ラジオ		1000 台	19	33	35			

\*1 表示された年の9月30日に終わる12ヶ月 \*4 粗立高 出所:国連  
 \*2 工場生産高のみ \*5 表示された6月30日に終わる12ヶ月  
 \*3 政府の生産高のみ

⑥ エネルギー・生産・消費

単位:石炭換算・100 万 t

項目	年	1960	1970	1973	1974	1975	1976	1977	備考
生産			1.11	1.52	1.41	1.51	1.78		
消費			1.56	1.77	1.69	1.39	1.51		
1人あたりキログラム			* 59		56	51	49		

\* 1972年

⑦ 発 電

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
発 電 量		KWh 100万	476	651	659	* 682	750	799
(内 水 力)		"	397	481	534	517	524	548
1人あたり発電量		KWh	25	21	25	26		
発 電 能 力		KW 1000	258	265	391	* 386	437	438
(内 水 力)		"			101	101		
電 力 消 費 量		100万 KWh	340	493	503	508	552	607

\* 推計値

出所：国連

⑧ 運 輸

① 道 路

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
道 路 延 長		Km			21,628		25,444	
舗装道路延長		Km			7,720		8,521	
舗 装 率		%			35.7		32.7	

出所：IRP

③ 鉄 道 輸 送

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
車 両 数		台						
機 関 車		"		* 565		395		
客 車		"		* 1,326		1,205		
貨 車		"		* 9,656		9,482		
輸 送 量		100万						
旅 客		人・Km (100万)	2,360	3,075	3,121	3,186	3,469	2,781
貨 物		トン・Km (100万)	755	634	395	405	388	396

\* 1972年

出所：国連

② 自動車保有台数\*

種別	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
乗 用 車		1000台	30	32	36	37	38	
1台あたり人口		台/人			855.0		817.8	
商 用 車		1000台	31	34	39	40	41	

\* 警察その他政府の保安機関が使用する車を含む。

出所：国連

④ 海 上 輸 送

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
出 荷		1000t	1,190	557	533	469	515	608
揚 荷		"	924	635	516	684		
入 港 船 舶		"		1,254				

出所：国連

⑤ 航 空 輸 送

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
旅 客		人・Km (100万)	141	181	180	163	167	196
貨 物		トン・Km (100万)	1.8	2.2	3.5	5.9	4.4	6.4
郵 便		"	0.2	0.2	0.2	0.1		

出所：国連

(7) その他の社会指標

① 1人あたりカロリー、蛋白質摂取量

年	1974~1976		1972~1974		1976		1977	
	摂取量	動物性の割合	摂取量	動物性の割合	摂取量	動物性の割合	摂取量	動物性の割合
カロリー	1,980	5.4%	2,124	5.0%				
蛋白質	50.2g	17.7%	55.2g	15.9%				

ビ  
ル  
マ

③ 出生時平均寿命、出生率、死亡率

調査年	単位	男	女	平均
出生時平均寿命 1977年	才	48.6	51.5	52
人口1,000人当りの普通出生率	%	1960 1970	45 39	
人口1,000人当りの普通死亡率	%	1960 1977	22 15	

出所：世界

② 在学率・文盲率

単位：(%)

年	1970			1973			1974			1975		
	男	女	平均	男	女	平均	男	女	平均	男	女	平均
在学率												
文盲率									67			67

出所：国連

④ 病院施設

項目	年	単位	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976
病院数					385			456	
病床数	ベド			24,074				25,567	
1ベットあたり人口	人							1,180	1,475
医師1人あたり人口	人							5,436	5,410

政府施設のみ

出所：国連

⑤ 新聞発行・新聞用紙消費

項目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
人口1000人当り新聞発行数	部			10	11	10		
用紙消費量(総計)	1000t		15.9	10.8	10.8	10.8	10.8	
1人あたり消費量	kg		0.6	0.4	0.4	0.4	0.4	

出所：国連

⑥ 放送受信機・電話普及率

項目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
ラジオ	台	1000	400	627	659			
人口1000人あたりラジオ保有台数	台		15	21	22			
テレビ	台	1000						
人口1000人あたりテレビ保有台数	台							
電話普及台数(人口1000人あたり)	台		0.1	0.1	0.1	0.1		

出所：国連

⑦ 水道、電気、住宅

項目	年	単位	1970	1975		備考
浄水受給者の対人口比	%			17		
電灯普及率	%					
1部屋当り平均人	人					

出所：国連

## II 経済技術協力

### (I) 開発途上国の援助受取高と債務

#### ① 開発途上国援助受取高

単位：100万ドル

事 項	1974	1975	1976	1977	1978
総受取高 Net	65.4	48.9	73.1	106.0	344.8
政府開発援助受取高 Net	67.4	58.2	71.0	101.6	272.1
(内) 二国間援助受取高 Net	59.9	29.2	39.3	54.6	156.8
技術協力受取実績 Net	12.3	15.09	20.18		

#### ② 政府開発援助の条件(コミットメント)

単位：100万ドル

事 項	1974	1975	1976	1977	1978
O D A 計				294.9	154.1
贈 与				63.7	50.9
借 貸				231.2	103.2
借款のグラントエレメント(G・E)%				55.9	63.5
ODAのグラントエレメント(G・E)%				65.4	75.6

#### ③ 開発途上国の債務

単位：100万ドル

事 項	1975年末現在	1976年末現在	1977年末現在	1978年現在
贈与受取高(累計1960～)	384	429	470	
直接投資残高	55	55	60	
債務(支払ベース)				
総 計	279	334	515	
DAC諸国政府開発援助に対する債務	133	145	201	
債務返済高				
総 計	34	35	34	
DAC諸国政府開発援助に対する債務	6	4	8	
債務返済率	18			

② DAC諸国の経済協力

① 経済協力総額

単位：100万ドル

区分	国名	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
二 国 間 授 助 ( ネ ット)	オーストラリア	0.6	1.2	1.4	1.1	4.0	3.0	2.8		
	オーストリア	0.3		0.1	*	*				
	ベルギー			1.6	-0.5	-0.4	-0.4	-0.3		
	カナダ	1.9	2.2	0.6	1.9	1.3	0.5	1.8		
	デンマーク							0.2		
	フィンランド									
	フランス	2.8	3.1	0.2	14.1	8.3	0.2	-0.9		
	西ドイツ	6.0	0.7	5.1	-2.3	2.5	-1.3	7.2		
	イタリア	1.2		-0.2	0.2	0.1	2.8	-0.1		
	日本	14.4	37.7	32.0	67.1	44.0	19.3	23.4		
	オランダ				*	*	0.1	6.8		
	ニュー・ジージランド			0.2	0.1	*	*	*		
	ノールウェー									
	スウェーデン									
	スイス			*	*	0.1	*	*		
	イギリス	0.6	1.7	4.1	1.2	1.3	-1.0	1.5		
米 国	2.0	2.0	4.0	*	-1.0	-1.0	-1.0			
計	29.8	48.6	49.1	82.9	60.2	22.2	41.4			
国 際 機 関 ( ネ ット)	AF. D. B.									
	A. F. E. S. D.									
	AS. D. B.						3.0	6.6		
	CAR. D. B.						0.2	0.9		
	C. E. C.									
	E. I. B.									
	I. B. R. D.	-2.5	-2.3	-2.1	-2.2	-2.3	-2.5	-2.0		
	I. D. A.					1.9	15.9	18.3		
	I. D. B.									
	I. F. C.									
	O. A. P. E. C.									
S. A. A. F. A.										
U. N.	2.5	2.7	4.1	3.9	5.6	10.0	6.9			
計	*	0.4	2.0	1.7	5.2	26.6	30.7			
合 計	29.8	49.0	51.1	84.6	65.4	48.8	72.1	106.0	344.8	

② 政府開発援助

単位：100万ドル

区分	国名	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
二 国 間 授 助 ( ネ ット)	オーストラリア	0.6	1.2	1.4	1.1	4.0	3.0	2.8	2.1	
	オーストリア			0.1	*					
	ベルギー									
	カナダ	1.9	2.2	0.6	1.9	1.3	0.5	1.8	6.2	
	デンマーク							0.2	0.1	
	フィンランド									
	フランス			1.1	1.7	-0.2	-0.2	0.4	2.5	
	西ドイツ	3.4	6.5	4.5	5.0	6.8	3.0	5.2	9.6	
	イタリア	*		*	*	*	*	*	*	
	日本	11.9	26.7	29.6	56.3	46.4	21.6	27.3	20.6	
	オランダ				*	*	0.1	0.1	0.1	
	ニュー・ジージランド			0.2	0.1	*	*	*	0.2	
	ノールウェー								*	
	スウェーデン									
	スイス			*	*	0.1	*	*	*	
	イギリス	0.6	0.6	0.7	0.8	1.5	1.0	1.5	4.3	
米 国	2.0	1.0	2.0	*	*	*	*	9.0		
計	20.4	38.2	40.2	66.9	59.9	29.0	39.3	544.6	156.8	
国 際 機 関 ( ネ ット)	AF. D. B.									16.6
	A. F. E. S. D.									
	AS. D. B.						3.0	5.3	9.6	
	CAR. D. B.									
	E. E. C.						0.2	0.9	0.6	
	I. D. A.					1.9	15.9	18.3	19.3	
	IMF Trust Fund								7.5	
	O. P. E. C.									
	S. A. A. F. A.									
	U. N.	2.5	2.7	4.1	3.9	5.6	10.0	6.9	2.2	
	OPEC Financed Agencies									
計	2.5	2.7	4.1	3.9	5.6	29.1	31.7	46.9		
合 計	22.9	40.9	44.3	70.8	67.4	58.1	71.0	101.6	272.1	

③ 技術協力

単位：100万ドル

区分	国名	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
二 国 間 援 助  ( ネ ット )	オーストラリア	0.4	1.2	0.4	0.4	0.4	0.9	0.6	0.3
	オーストリア			0.1	*				
	ベルギー								
	カナダ	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1
	デンマーク							0.2	0.1
	フィンランド								
	フランス								
	西ドイツ	1.8	1.0	1.2	1.5	3.0	2.1	5.3	5.5
	イタリヤ	*		*	*	*	*		
	日本	0.3	0.2	1.7	1.2	1.5	2.3	3.1	1.4
	オランダ				*	*	0.1	0.1	0.1
	ニュー・ジーランド			*	*	*	*		0.1
	ノールウェー								*
	スウェーデン								
	スイス			*	*	*	*		
	イギリス	0.6	0.6	0.7	0.8	1.5	1.0	0.7	0.6
	米 国	*							
計	3.2	3.1	4.2	4.1	6.6	6.5	.1	6.2	
国際機関 ( ネ ット )	A.S.D.B.							0.4	0.8
	E.E.C.								
	I.D.B.								
	O.A.P.E.C.								
	S.A.A.F.A.								
	U.N.	2.5	2.7	4.1	3.9	5.6	8.5	6.9	7.7
計	2.5	2.7	4.1	3.9	5.6	8.5	7.3	8.5	
合 計	5.7	5.8	8.3	8.0	12.2	15.0	17.4	14.7	

③ 共産圏諸国からの開発援助受取額

単位	1954年～1971年	1972	1973	1974	1975	1976	1977
100万 ドル	92	26	1				

④ 政府貸付

単位：100万ドル

区分	国名	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
二 国 間 援 助  ( ネ ット )	オーストラリア								
	オーストリア								
	ベルギー								
	カナダ							0.5	4.8
	デンマーク								
	フィンランド								
	フランス			1.1	1.7	-0.2	-0.2	0.4	2.5
	西ドイツ	1.7	5.5	3.3	3.5	3.8	0.9	-0.2	6.0
	イタリヤ								
	日本		9.9	11.6	41.9	34.2	5.2	12.0	9.2
	オランダ								
	ニュー・ジーランド								
	ノールウェー								
	スウェーデン								
	スイス								
	イギリス								
	米 国						*		
計	1.7	15.4	16.0	47.1	37.8	5.9	12.7	22.5	
国際機関 ( ネ ット )	AF. D. F.								
	A.F.E.S.D.						3.0	5.3	8.9
	AS. D. B.								
	CAR. D. B.								
	E. E. C.								
	I. D. A.					1.9	15.9	18.3	19.3
	IMF Trust Fund								7.5
	O.P.E.C.								2.2
S.A.A.F.A.									
計					1.9	18.9	23.6	37.9	
合 計	1.7	15.4	16.0	47.1	39.7	24.8	36.3	60.4	

ビ  
ル  
マ

(4) わが国の二国間経済協力

① 年別、援助形態別、経済・技術協力（DACベース）

単位：1,000ドル

ビ ル マ	援助形態 曆年	政 府 開 発 援 助				その他政府資金及び民間資金の流れ			総 合 計
		贈 与		政 府 貸 付	計	直 接 投 資 等	輸 出 信 用	計	
		無償資金協力	技 術 協 力						
1960	21,447	60	21,507		21,507				21,507
1961	13,585	12	13,597		13,597				13,597
1962	24,397	93	24,490		24,490	84	200	284	24,774
1963	26,988	160	27,148		27,148		- 40	- 40	27,108
1964	16,625	138	16,763		16,763		- 39	- 39	16,724
1965	11,683	104	11,787		11,787	- 8	1,124	1,116	12,903
1966	10,247	89	10,336		10,336		- 187	- 187	10,149
1967	6,324	141	6,465		6,465		7,668	7,668	14,133
1968	10,173	268	10,441		10,441		9,958	9,958	20,399
1969	14,560	200	14,760		14,760		- 320	- 320	14,440
1970	11,640	300	11,940		11,940		2,480	2,480	14,420
1971	16,610	150	16,760	9,900	26,660		11,000	11,000	37,660
1972	16,360	1,690	18,050	11,590	29,640		2,330	2,330	31,970
1973	13,150	1,220	14,370	41,900	56,270		10,830	10,830	67,100
1974	10,610	1,530	12,140	34,230	46,370		- 2,380	- 2,380	43,990
1975	14,150	2,260	16,410	5,240	21,650		- 2,390	- 2,390	19,260
1976	12,260	3,060	15,320	11,990	27,310		- 3,920	- 3,920	23,390
1977	9,930	1,410	11,340	9,210	20,550		- 2,790	- 2,790	17,760
1978	7,890	2,720	10,610	93,410	104,020		21,410	21,410	125,430
総 計	268,629	15,605	284,234	217,470	501,704	76	54,664	54,740	556,444

② 直接借款（1979年12月末現在）

No	事 項	規 定 協 定	金 額 (百万円)	対 象	返済期間(年) (内は据置期間)	金 利(%)	貸出機関	備 考	G・E (%)
	円 借 款	1969. 2. 15 交換公文	10,800	車両製造計画、電気機器製造計画等	20 ( 5 )	3.5	基 金	タイド	45.72
	円 借 款	1971. 8. 4 交換公文	5,600	沖合石油開発計画	25 ( 7 )	3.0	基 金	アンタイド	52.68
	円 借 款	1972. 3. 10 交換公文	4,620	資本財、医薬品、繊維品等	25 ( 7 )	3.0	基 金	タイド	52.68
	円 借 款	1972. 8. 22 交換公文	20,160	新工業化四プロジェクト	25 ( 7 )	3.0	基 金	内16,640百万76.1%タイド	52.68
	円 借 款	1975. 2. 2 交換公文	3,080	マルタパン湾沖合石油開発計画	25 ( 7 )	3.0	基 金	アンタイド	59.75
	円 借 款	1975. 7. 27 交換公文	11,620	原材料等 シリウム精油所建設計画	25 ( 7 )	3.0	基 金	商品(4,620万円) プロジェクト(7,000百万円)	52.68
	円 借 款	1975. 6. 18 交換公文	3,500	商品援助	20 ( 10 )	3.75	基 金	LDCアンタイド	52.68
	円 借 款	1976. 11. 26 交換公文	29,950	マン精油所建設計画	25 ( 7 )	3.0	基 金	タイド	52.68
	円 借 款 取消	1976. 11. 26 交換公文	△23,595	シリウム製油所建設計画、新工業化四プロジェクト	25 ( 7 )	3.0	基 金	新工業化四プロ16,595 シリウム製油所 7,000 取消	59.75
	円 借 款	1977. 6. 21 交換公文	9,000	商品援助	30 ( 10 )	3.75	基 金	一般タイド	
	円 借 款	1977. 6. 21 交換公文	19,540	事業計画	30 ( 10 )	3.75	基 金		
	円 借 款	1978. 10. 20 交換公文	13,500	商品借款	50 ( 10 )	2.50	基 金	一般タイド	61.88
	円 借 款	1978. 12. 27 交換公文	2,750	河川輸送増強計画	30 ( 10 )	2.50	基 金	タイド	61.88
	円 借 款	1978. 11. 20 交換公文	12,750	精米所計画	30 ( 10 )	2.25		LDCアンタイド (一部一般アンタイド)	64.01
			14,250	商品借款	30 ( 10 )	2.25		一般アンタイド	64.01

ビ  
ル  
マ



④ 無償資金協力(1977年12月末現在) 交換公文ベース

イ) 贈 横

単位: 100万ドル

公換公文締結日	総 額	供 与 期 間	年間供与額	契約認証総額	支払済額	義務履行率(%)	備 考
1954.11.5	200 (720)	1955.4.16~ 65.4.15	20 (72)	198.0 (712.8)	200 (720)	100	1965年4月15日終了 主な供与品目……パルチオン発電所、ポンプ、耕うん機、家庭用電気器具、バス、 トラック、乗用車等名組立工場、機械類、亜鉛鉄板、鋼材等
1963.3.29	140 (473.3)	1965.4.16~ 77.4.15					主な供与品目……ポンプ、耕運機、電気器具、バス、トラック、乗用車等名組 立工場、鉄道用資材

マ

ロ) 一般無償協力

単位: 100万円

年度	締 結 日	案 件 名	金 額
75	75.8.16	生物学研究センターの建設	700
76	76.10.9	電話機器・電話回線網システムの拡充	600
77	77.7.12	生物医学研究センターの設立	1,500
78	78.8.25	生物医学研究センター建設	1,300
	78.8.28	地域短期大学用教育機材供与	500
	78.10.17	学童用制服無償配布計画のための織雑品	600
	78.12.15	橋梁建設のための小型棒鋼供与	500
	78.12.26	学童用制服無償配布計画のための織雑品	300
	78.12.26	工業高校教育改善計画のための機材(追加)	700
	78.12.26	冶金研究開発センター施設建設・機材	2,000
	78.12.26	ラングーン総合病院医療施設整備計画用機材	600
79			

ハ) 文化無償協力

単位: 100万円

年度	締 結 日	案 件 名	金 額
76	77.1.17	文化省文化財保存機材	9
77	77.7.18	ラングーン野外劇場用照明音響設備	29
78	78.2.9	文化省バガン遺跡修復機材	25
	78.8.29	ジュピリー劇場音響、照明機材	30

ニ) KR食糧援助

備考: (建値) \$ = 米ドル 両 = 両建(円及びドル)

年度	締 結 日	案 件 名	建 値	金額(100万円)	金額(1000ドル)

ホ) 食糧増産援助

単位: 100万円

年 度	締 結 日	内 容	金 額
78	78.2.9	肥料、農薬、農業機械供与	600
	78.10.18	肥料、農業機械供与	1,100
	78.11.30	肥料	800

⑤ 技術協力 (DACベース)

イ) 年別、形態別技術協力

単位: 1,000ドル

年	研修員受入			留学生受入		専門家派遣			調査団派遣			協力隊派遣	研究協力	機材供与	その他	技術協力総経費	
	金額	人数		金額	人数	金額	人数		金額	人数						合計	内ICA分
		全体	内ICA分				全体	内ICA分		全体	内ICA分						
1976	534.68	71	54	105.59	14	151.51	25	17	835.98	35	35	0.0	4.94	111.55	1,516.75	5,058.78	909.34
1977	592.00	116	91	114.00	10	349.00	60	48				0.0		192.00	160.00	1,412.00	1,020.00
1978	651.25	89	78	151.77	12	520.56	50	24	577.90	87	85	0.0	18.24	604.49	194.36	2,718.56	2,365.75
1979																	

(注) 1977年専門家派遣実績は、調査団派遣を含んだ実績

ロ) 国際協力事業団技術協力実績 (DACベース, 1975年~1977年)

ア) 事業形態別経費実績

単位: 1,000円

年(暦年)	項目	合計	研修員受入	専門家派遣	調査団派遣	研究協力	機材供与	協力隊派遣(学生)	その他
1975		418,329	58,021	36,923	229,833		82,488		11,064
1976		(269,664) 402,805	82,887	28,932	(115,186) 245,426		(28,784) 31,685		11,875
1977		273,777	130,249	45,644	31,934		52,763	13,187	273,777
1978		128,449	128,499	95,010	119,972	3,838	127,227		23,423
1979									

(注) カッコ内数字は、「資源開発協力基礎調査費」を除いた場合の経計数字である。

イ) 分野別研修員受入

年(暦年)	項目	総人数	Planning & Administration		Public Utilities	Agriculture	Industry		Trade	Education	Health Services	Social Services	Multi-Sector Unspecified	Man-Months Total
			Public Administration	Economic Planning			Construction	Others						
1975		46 <sup>A</sup>			4 <sup>A</sup>	8 <sup>A</sup>	7 <sup>A</sup>	14 <sup>A</sup>	1 <sup>A</sup>		10 <sup>A</sup>	2 <sup>A</sup>		196.6 <sup>A,B</sup>
1976		54	1	2	10	13	6	10			6	2	4	224.9
1977		91	3	4	20	11	9	18	1		9	5	11	324.4
1978		78		2	7	22	7	18	1		8	6	7	305.5
1979														

ロ) 分野別専門家派遣

年(暦年)	項目	総人数	Planning & Administration		Public Utilities	Agriculture	Industry		Trade	Education		Health Services	Social Services	Multi-Sector Unspecified	Man-Months Total
			Public Administration	Economic Planning			Construction	Others		Teachers	Others				
1975		22 <sup>A</sup>			1 <sup>A</sup>	2 <sup>A</sup>		5 <sup>A</sup>			1 <sup>A</sup>	6 <sup>A</sup>	7 <sup>A</sup>		75.0 <sup>A,B</sup>
1976		17			5	6	5					5			26.1
1977		21			10	5						2	3	1	55.5
1978		24		3	2	13						5		1	53.2
1979															

① 分野別調査団及び顧問派遣

項目 年(暦年)	総人数	Planning & Administration		Public Utilities	Agriculture	Indust		Trade	Education		Health Services	Social Services	Multi-Sector Unspecified	Man-Months Total
		Public Administration	Economic Planning			Construction	Others		Teachers	Others				
1975	40			6		2	32							80.8
1976	(35) 49			16	15	3	(11) 25							(35.1) 49.8
1977	27				16					11				16.9
1978	83				51	13	11				3	5		75.9
1979														

(注) カッコ内数字は、「資源開発協力基礎調査費により派遣された調査団の人数、M/M」を除いた場合の統計数字である。

III 一般事情

① 開発計画

ビルマの開発計画は1948年独立直後における経済開発2カ年計画が作成され、次いで、福祉国家計画(1952/53~59/60年、ピードータ計画とも称されている。)

国家開発4カ年計画(1961/62~64/65年)、経済4カ年計画(1966/67~69/70年)が策定されたが、いずれも挫折または大巾修正された。

ネ・ウイン政権は発足後発の本格的開発計画として、第1次開発4カ年計画(71/72年~75/76年)を編成しビルマ社会主義建設の第1歩とすべく開発計画の実効にうつったが、1972年における農業部門の不振1973年の石油ショック以来の世界的インフレの影響、外貨不足からの輸入削減処置のもたらした結果としての生産部門の停滞から、第1次4カ年計画は2年半で打ち切れ、新たに第2次4カ年計画(74/75~77/78年)が1974年4月に策定された新20ヶ年計画(1974/75~93/94年)を構成する5期に亘る4カ年計画の第1次計画として実施されたが、第2次4カ年計画も計画目標値であるGDPの年平均増加率6%を達成出来ず、その成長率は以下の実績となった。その要因としては、輸出及び投資の停滞によるものとみられる。

第2次4カ年における国内総生産の目標と実績

	1974/75	1975/76	1976/77	1977/78	備考
目標	6.3	6.4	6.9	6.6	
実績	2.7	4.1	5.9	6.4	年平均5%

単位: %

第3次4カ年計画(78/79~81/82年度)

第2次計画に基づき、長期20カ年計画の一部を構成している第3次計画においては、GDP 6.6%、国内消費5.8%、投資11.2%、輸出10.8%、輸入12.7%の年平均増加率とし生産部門の生産増加率は、農業5.8%、畜水産5%、林業5.8%、鉱業12.2%、工業12.2%を達成目標とした。このためビルマ政府は大幅な投資増と、外国援助資金の積極的な利用を図るため、第2次4カ年計画の最終年1年と第3次

4カ年計画期間を合わせた、「開発投資5カ年計画」を策定した。

第3次開発4カ年計画の達成目標

【部門別】

国内総生産(年平均)	6.6%	農業	5.8%
国内消費	5.8%	畜・水産	5.0%
投資総額	11.2%	林業	5.8%
輸出総額	10.8%	鉱業	12.2%
輸入総額	12.2%	工業	12.2%

国家開発20カ年計画における国内総生産(ネット)成長目標

%	年成長率		年成長率
第2次4カ年計画	4.0%	第5次4カ年計画	7.0%
第3次4カ年計画	5.0%	第6次4カ年計画	7.6%
第4次4カ年計画	6.0%	第7次4カ年計画	5.9%

○印 現行

① 年間気温

ビルマ — ランゲーン地方 年間気温表

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
温度(℃)	最高	31	33	35	37	33	29	29	30	31	31	31
	最低	18	19	21	25	26	25	25	25	24	23	19
	平均	25	26	28	31	29	28	27	27	28	27	25
降雨日数	0.2	0.4	0.6	2	14	25	25	24	20	10	3	0.4

海外生活の手引

② 祝 祭 日 (但し、1977年の場合)

- 1月 4日 独立記念日
- 2月 12日 ビルマ連邦記念日
- 3月 2日 農民の日
- \* 3月 13日 タバウン月(満月の月)
- 3月 27日 建軍記念日
- \* 4月 13日～16日 水祭り
- \* 4月 17日 ビルマ暦新年
- 5月 1日 メーデー、ガゾン月(満月の月)
- 7月 19日 殉難者(アウン・サン将軍等)の日
- \* 7月 30日 ワゾー祭(仏教徒持戒開始日)
- \* 10月 27日 タデン・デニツ祭(仏教徒持戒終了日)
- \* 11月 25日 タザウン・ダイン(灯祭)
- 12月 5日 国民の日
- 12月 25日 クリスマス

注) 上記の他、「カレン族新年」、「ヒンドゥー灯祭(デワリー)」及び「回教祭」が祝祭日であるが、日取未確認。なお、\*印の祝日は、ビルマ暦により決定されるため、毎年日取りが異なる。

③ 条 約 関 係

- 講和条約(1955年4月16日発効)
- 賠償協定(1955年4月16日発効)
- 経済技術協力協定(1963年10月25日発効)
- 航空協定(1972年9月21日発効)

④ 日本人学校

ラングーン 昭和39年6月設立 常勤教員数5名 児童生徒14名(小11 中3 幼9)

⑤ 電気事情

地 域	周波数	相数	電 圧	配線数	電気時計
Mandalay マンダレー	a.c 50	1.5	220/440	2.4	Ⓕ
Moulmein モールメン	a.c 50	1.3	220/440	2.4	Ⓕ
Rangoon ラングーン	a.c 50	1.3	220/440	2.4	Ⓕ

Adaptor 使用不可、低圧配線3相線式

カンボディア

カンボディア

1. 総括実績

(1) 形態別・年度別

形態	29-50		51		52		53		累 計	
	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)
1. 研修員受入れ	241,591	453(10)	7,256						248,847	453(10)
2. 専門家・調査団	901,723	293							901,723	293
(1) 専 門 家	793,321	195							793,321	195
(2) 調 査 団	108,402	98							108,402	98
3. 協 力 隊	37,311	16							37,311	16
4. 機 材 供 与	473,776								473,776	
5. そ の 他	406								406	
合 計	1,654,807		7,256						1,662,063	

カンボディア

(2) 形態別・分野別

形態	分 野																	人数累計 (人)	経費累計 (千円)
	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉄 業	軽 工 業	化 学 工 業	公 益 事 業	運 輸	郵 政	厚 生	原 子 力	経 営 技 術	教 育	行 政	そ の 他			
研修員受入	152	5	23	10	3	16(3)	1	12	35	64	8	1(1)	11(1)	33	43	36(5)	453(10)	248,847	
調査団派遣	24	12							22	12						28	98	108,402	
専門家派遣	72	1	7		1	3		2	1	45	46			10	2	5	195	793,321	
協力隊派遣	7													9			16	37,311	
機材供与																		473,776	
その他																		406	
合 計																		1,662,063	

2. 事業別実績  
研修員受入事業

カンボディア

業種 年度	計 (人)	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉱 業	軽 工 業	化学 工業	公益 事業	運 輸	郵 政	原 生	原子 力	経営 技術	教 育	行 政	そ の 他	金 額 (千円)
29年度	2						2											
30 "	6								5			1						
31 "	22	1										2			14	5		
32 "	37	5		11			1								6	2	12	
33 "	45	26	2							2	2				7		6	
34 "	29	21	2							2					1		3	16,930
35 "	26 (2)	15			2		2(2)				6							
36 "	29 (1)	17			2		1			1	5		1(1)			2		
37 "	4									1	3							
38 "	21	19		1								1						
39 "	6			2							4							3,157
40 "	3									1	2							927
41 "	10	3							2		2			2			1	4,698
42 "	10	2		1							7							7,825
43 "	2										1		1					573
44 "	20	1		2					1		13					1	2	10,029
45 "	1 (1)													1(1)				435
46 "	40	9		1	1					10	6			1		11	1	23,488
47 "	39 (2)	10		1		1	3			3	7	1		2		4	5(2)	34,874
48 "	51 (2)	13		1	2	1	2		4	7	4			4	2	7	4(2)	72,899
49 "	50 (2)	10	1	3	3	1	5(1)	1		8	2	3				11	2(1)	59,530
50 "																		6,226
51 "																		7,256
29～合計	453(10)	152	5	23	10	3	16(3)	1	12	35	64	8	1(1)	11(1)	33	43	36(5)	248,847

専門家派遣事業

年度	業種	計(人)	農業	水産	建設	重工業	鉱業	軽工業	化学工業	公益事業	運輸	郵政	厚生	原子力	経営技術	教育	行政	その他	金額(千円)
30年度		6			6														
32	〃	2	2																
34年度		10	6									2				1	1		
35	〃	8						1				6				1			112,807
36	〃	6						2				3						1	
37	〃	7	3								1	2				1			
38	〃	3	2										1						
39	〃	6	1									4	1						28,521
40	〃	8	2									1	4			1			69,655
41	〃	14	8							1		5							85,412
42	〃	8	3	1	1							3				1			96,607
43	〃	9	2									4					1	1	90,317
44	〃	22	13				1			1		5				2			92,229
45	〃	2														2			57,831
46	〃	11										8						3	21,323
47	〃	3										2				1			9,613
48	〃																		7,048
49	〃																		310
50	〃																		288
30～合計		125	42	1	7		1	3		2	1	45	6			10	2	5	671,961

カンボディア



青年海外協力隊派遣事業

カンボディア

年度	業種	計 (人)	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉱 業	軽 工 業	化学 工業	公益 事業	運 輸	郵 政	原 生	原子 力	経営 技術	教 育	行 政	そ の 他	金額
																			(千円)
40年度		9	7													2			4,290
41 "																			8,059
42 "		3														3			10,389
43 "		4														4			9,141
44 "																			9,588
45 "																			3,182
40～合計		16	7													9			44,646

機材供与事業

No	機材名	機材供与先	年度	機材供与経費(千円)
1	2カ国語用テレプリンター	郵政省	41	3,699
2	かんがい用ポンプ	農業省	42	14,060
3	ポンプ場建設機材	農業省	43	14,695
4	水道保守用機材	プノンペン市水道局	43	2,535
5	2カ国語用テレプリンター、3台	郵電省	44	5,797
6	線路用伸縮はしご車	郵電総局	45	2,847
7	テレックス機材	郵電省	47	7,157

技術協力センター事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団		専門家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)	
				人数		経費				
				継続	新規	千円	千円			
日・カ友好農業センター 協定等の種類：協定 (日本・カンボディア 経済技術協力協定) 署名年月日：34.7.6 協力期間：34.7～41.7  協定等の種類： 交換公文 署名年月日：41.9.30 協力期間：41.10～ 44.9	カンボディア王国の対日賠償請求権放棄により、わが国は、総額15億円の経済および技術援助を行なうこととなり、昭和34年3月、農業、畜産および医療の3センターを建設し、その運営に必要な専門家の派遣および物資の提供を含む日本、カンボディア経済技術協定が締結された。本センターは、本協定に基づく協力の一環として、カンボディア王国の農業技術の研究および普及を行い、もって農産物の増産に寄与することを目的とし、そのおもな事業として稲作および畑作物の生産技術に関する研究、調査、農機具の利用に関する研究および調査、技術者の養成、農民の訓練等を実施するものである。	34	事前調査		※7					
		34	実施調査		◎5					
		35					◎9	◎42,529	◎8,800	
		36					◎9			
		37					◎9	◎9,346		
		38					※1			
		39					※1	※1		
		39					◎9	◎205,527	◎60,270	
		40					※1		◎5,650	
		40					◎9	◎1		
41	実施調査		4	1,708	※11	※5	※28,751 7,579			
事前調査：34.8.11～ 34.9.16 (専門家派遣事業により派遣) 実施調査：35.3～ (協定に基づく無償資金により派遣) 実施調査：41.6～	本センターは、当初の事業対象を稲作の多収栽培を目標とする試験におき、日本の稲作技術を最大限に活用し、灌漑排水施設の整備に力をそそぎ、また乾期の水田利用にも水利条件の許す範囲で実施した。  協定終了後においてカンボディア国側でセンターの運営を引き継ぐ体制が整わぬところから協定終了後さらにセンターの運営の強化と引き継ぎ準備体制の促進を図ることとなり、この方針にしたがい今後のセンター運営の具体的方針およびわが国の協定についてのカ側との打合せおよび現地調査のため昭和41年6月、実施調査団を派遣した。調査団の調査の結果に基づき、本センターの今後の方針としては、その優れた研究設備体制と300ヘクタールの圃場用地を使用しこれを採種圃場とすることとなった。									

カンボディア

技術協力センター事業

カンボディア

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団			専門家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)
				人数		経費	人数		経費		
				継続	新規	千円	継続	新規	千円		
	<p>しかしセンター圃場用地はその大半が未整備であるため、今後3か年で整備する計画で、その具体化を図ることとなった。</p> <p>協定終了後カ国とさらに検討を重ねた結果「日・カ経済協力協定に基づき設置されたセンターの運営に関する交換公文」が昭和41年9月30日プノンペンにおいて署名され10月1日その効力が発生した。これにともない41年度に拡充機材費約2,000万円を計上し、圃場整備計画の実施に必要な農業土木機械、農機具、肥料、農薬を含む機材を供与した。また、42年度は、センター整備拡充計画の第2年度計画の実施にあたり、農業協力費で2,100万円の拡充機材費を計上し第2年度計画の遂行に必要な農業、土木機械、農機具、肥料等を含む機材を供与した。</p> <p>なお、昭和42年4月1日以降は農業協力事業により引続き協力を行った。(農業協力事業を参照)</p>										
<p>日・カ友好畜産センター協定等の種類：協定 (日本・カンボディア経済技術協力協定) 署名年月日：34.7.6 協力期間：34.7~41.7</p> <p>協定等の種類： 交換公文 署名年月日：41.9.30 協力期間：41.10~44.9</p>	<p>本センターは、日本、カンボディア経済技術協力協定に基づく協力の一環として、畜産技術の改善とその普及を図り、もって家畜の改良増産と畜産物の増産に寄与することを目的として設置された。</p> <p>当初の事業対象としては、わが国より購送した種畜種禽を基礎として増殖し、これによって改良をすすめる方法を採用した。乳牛の導入によって酪農をおこし、乳製品の輸入をおさえることは、カンボディア政府当局の年来の熱望であり、センター開所式(40.7)に際し、シアヌーク首相の演説も畜産振興を強く訴えているところで、さわめて不利な自然的条件のもとで家畜禽の増殖、その配布、乳製品の生産、産卵等に成果を</p>	35					◎ 5	...			
	36					◎ 5	◎ 1	...			
	37					◎ 6		...			
	38										
	39						◎ 7	...	◎ 87,100		
	40						◎ 7	※ 1	...	◎ 2,307	
	41						※ 7	※ 4	...	◎ 4,184	
41									18,030		

技術協力センター事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団			専門家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)
				人数		経費	人数		経費		
				継続	新規	千円	継続	新規	千円		
	<p>あげている。家畜家禽の保健衛生については、センターにおける措置はもちろん、伝染病、寄生虫病等は周辺地域の影響が大きいので、随時周辺農家を巡回し、調査、対策指導を実施した。</p> <p>農民の技術訓練については、専門家は間接指導にとどまり、直接指導はカ側要員がその任にあたった。また一般農民の畜産に関する知識の向上についても、カンボディアにおける普及組織を通じ積極的に協力し、一方センター内における展示等により大きな効果をあげた。協定に基づく派遣専門家の派遣期間は昭和40年10月で終了したが、ひきつづきコロンボ計画により専門家を派遣し、協力を行った。機材の購送に関しては、40年度中に、231万円の補充機材調達を実施、さらに協定終了の昭和41年7月までに418万円の機材調達を実施した。</p> <p>本センターに関しても農業技術センターと同様、調査団の調査結果によりカンボディア国側の引継ぎ体制促進を図るため、協定終了後のセンターの基本方針として、カ国の重点施策の一つである酪農の振興、特に牛乳の生産と販売および種畜の配布等を重視し、そのパイロット・センターとしてカ側の期待に応えるため乳牛部門を充実すべく、乳牛生産計画を本格的に拡充強化することになった。従来本センターは調査研究および技術指導に重点がおかれていたため、生産体制は全く考慮されていなかったため、協定終了後は省力飼養管理を採用し、これに要する放牧欄および避難舎の建設、基礎雌牛の充実を図り、将来、飼養可能致であ</p>										

カンボディア

技術協力センター事業

カンボディア

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団		専門家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)
				人数		経費			
				継続	新規	千円	千円		
	<p>る100頭まで増殖することとなった。</p> <p>このため41年度は同センター拡充のための予算2,000万円弱を計上、乳牛および放牧欄、避難舎等を含む機材を供与した。</p> <p>なお、昭和42年4月1日以降は農業協力事業により協力を行った。</p> <p>(農業協力事業を参照)</p>								
日・カ友好医療センター協定等の種類：協定 (日本・カンボディア経済技術協力協定) 署名年月日：34.7.6 協力期間：34.7～41.7	日本・カンボディア経済技術協力協定に基づく協力の一環として、本センターは医療技術の改善とその普及を図り、もって医療技術の向上に寄与することを目的として設置された。昭和39年3月、施設完成にともない同年4月カンボディア政府と2,294万円の物資調達契約を締結、さらに専門家派遣につき同年5月に役務提供契約を締結、7名の専門家を6月以降派遣した。病院的運営を予定したわが方と、カ側の予防医学を目的として運営されるべきであるとの見解に多少の相違があったが、当センターは治療医学に対する用意が十分なされ、予期以上の機能を発揮することができた。外来患者はすでに業務開始当日から殺到するという盛況で、日々の受診患者数は、120名以上に達し、さらに結核患者診療日は内科だけで200名ちかくの患者を取り扱った。協定により派遣された専門家の滞在期間中(39.6～40.5)の取扱い患者数は、内科1万6,500名、外科3,825名、産婦人科2,276名、計2万2,601名にのほり、また外科手術実施例は、157例となり、産婦人科手術例は67例であった。	39				◎ 7	...	◎ 22,939	
協定等の種類： 交換公文 署名年月日：41.9.30 協力期間：41.10～44.9		40				◎ 7 ※ 3	...	※ 1,110	28,042
		41				※ 3			37,930

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)
				人 数		経 費	人 数		経 費		
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円		
	<p>X線は、診療用装置のほか診療用X線自動車1台を準備したが、すすんで検査を希望するものが多く、わずか2、3カ月で日本から運んだフィルムが枯渇するといういきさつもあった。医薬品、衛生材料等も予想以外の患者数により消費量が予想量を上回り使用制限をせざるをえぬこととなったが、その後センターの強い希望により、医薬品(30条円相当分)の追加を実施した。望により、医薬品(30万円相当分)の追送を実施した。</p> <p>協定に基づく専門家の派遣期間は昭和40年5月終了したが、コロポ計画によりひきつづき3名の専門家を派遣した。</p> <p>本センターは昭和41年7月5日、日・カ経済および技術協力協定が終了したが、ひきつづきカ国の要請により延長することとなり、交換公文にて10月1日よりさらに3年間の協力、運営をすることとなり、本事業(機材供与額等予算6,600万円)を医療協力事業に引き継ぎ、実施した。</p>										

カンボディア

保健医療協力事業

カンボディア

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家		機材供与経費 (千円)	主要機材		
				人 数		経 費					
				継 続	新 規	千 円	千 円				
医療センター 協定等の種類：協定 (経済技術協力協定) 署名年月日：34.7.6 協力期間：34.7~41.7 協定等の種類：交換公文 署名年月日：41.10.7 協力期間：41.10~44.9 協定等の種類：交換公文 (延長) 署名年月日：44.10.7 協力期間：44.10~46.9 実施調査：42.2.12~ 42.2.24 国内協力機関： 厚生省 日本キリスト教海外 医療協力会	日本・カンボディア経済技術協定にもとづき、昭和40年7月に開所された医療センターを協定終了後、コロンボ計画に切り換え、昭和41年度より昭和45年度まで医療器材(X線車、心電計、医薬品等)の供与を実施し、さらに検査室関係および病棟の建設に必要な資材の一部を供与した。 医療センターにおいては、診断および治療、衛生思想の普及、実験および研究等の協力活動を行い、昭和45年度にカンボディア国内の乱のため、本プロジェクトは打ち切り、終了した。 (技術協力センター事業を参照)	41	実施調査		2	605	3	1	5,763	① 1,624	
		42								① 1,512 4,938	レントゲン用 機材
		43								① 124 8,572	手術用器材医 薬品
		44								① 1,153 11,964	医薬品
		45								303	
医療協力実施調査 調査期間：41.6.4~ 41.6.24 (21)	(カンボディア、ヴィエトナム) アジア一般を参照のこと。	41	実施調査 (第1回) 実施調査 (第2回)		(2)	(1,107)					
医療協力視察 調査期間：44.3.19~ 44.3.26 (8)	(カンボディア、フィリピン) アジア一般を参照のこと。	43	視 察		(3)	(479)					

農林協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)			
				人 数		経 費						
				継 続	新 規	千 円	千 円					
とうもろこし開発協力 協定等の種類： 署名年月日： 協力期間： 実施調査：43.1.2～ 43.1.31 実施調査：43.10.31～ 43.12.7	(開発技術協力事業を参照のこと)	42	実施調査		9	5,111			5,111			
		43	実施調査		3	2,275		1	664	98,045	100,984	
		44				Ⓐ 244		1	6	16,023	21,676	37,943
		45						4		12,664	550	13,214
		46						2		7,744	337	8,081
農業・畜産センター 協定等の種類 (日本カンボディア友好農業技術センターおよび日本カンボディア友愛畜産センター運営に関する日本政府およびカンボディア王国政府間の交換公文) 署名年月日：41.9.30 協力期間：41.10～44.9 協定等の種類： (延長) 署名年月日： 協力期間：44.10～47.9 計画打合せ調査： 44.2.14～44.3.16	両センターはカンボディア王国の対日賠償請求権放棄により、総額15億円の経済および技術協力を行うことを目的として、昭和34年3月2日締結された「日・カ経済技術協力協定」にもとずき医療センターとともに設立されたものである。本協定による協定期間は昭和34年7月6日から昭和41年7月5日までの7カ月間であり、その協力の内容は次のとおりであった。 a. センターの建設 b. 日本人専門家の派遣 c. 所要資機材の供与 しかし、カンボディア側の受入体制の整備、センター用地の選定、センター建設に関する実施設計などの遅延によりそれらの準備のため上記期間のほとんどを費し、昭和39年3月センター建物の完成、同年7月頃から専門家の派遣、資機材の供与などの開始により、昭和40年7月8日ようやくセンターの開所式を行うに至った。(技術協力センター事業参照)。 このように上記協力期間の満了する昭和41年7月	42						※ 3	...	24,542	24,542	
		43	計画打合せ		※ 1 5	2,931	※ 12		...	54,484	57,415	
		44					※ 9	※ 11	1,263			1,263
		45					※ 9		...			

カンボディア



カンボディア

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団			専門家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)
				人数		経費	人数		経費		
				継続	新規	千円	継続	新規	千円		
	<p>までには開所式以来実施的協力を始めてから備か1カ 年程度の期間しかなく、ほとんど効果をみるに至らな かった。</p> <p>従ってこの時点でわが国の協力を中止することは、 具体的な協力効果のあがっていない状況でもあり、ま たカンボディア側のセンター運営引継ぎ体制の整わな いことから、引き続いて昭和44年9月30日までの 3カ年間協力することとして「交換公文」と取りかわ した。</p> <p>技術協力の内容は次のとおりである。</p> <p>a. 農業および畜産業の生産技術向上のための試験 研究および調査</p> <p>b. 農業および畜産技術者に対する訓練ならびに技 術の普及</p> <p>c. 実験展示</p> <p>なお、両センターに対する協力は昭和44年10月 よりさらに3カ年延長して昭和47年まで実施する予 定であったが、昭和44年度末のカンボディア国の政 変により協力の続行が不可能となり、昭和45年、全 専門家は日本への引き上げ、本プロジェクトに対する 協力は終了した。</p>										

開発技術協力事業

プロジェクト名	概要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)		
				人 数		経 費					
				継続	新規	千 円	千 円				
とうもろこし開発協力 協定等の種類： 交換公文 (カンボディアにおけ るとうもろこし開発に 関する交換公文) 署名年月日：43.11.2 協力期間：43.11～ 46.11	カンボディア政府はわが国に対し、日本・カンボ ディア合併による熱帯作物栽培公社(SOCTROPIC) の設立を期し、わが国に技術協力を要請してきた。わ が国は、両国の貿易アンバランス是正の観点から、と うもろこし開発に関し、生産から流通面に至る協力を 実施することとした。昭和42年度、3名からなる実 施調査団を派遣し、その調査結果にもとづき、流通、 普及(土壌肥料)、普及(農業機械)の3名の専門家 を昭和44年3月末に派遣し、肥料、農薬、農業機械 等を供与し、雨期作より事業を開始した。 普及事業は、試験場で選抜した適品種と新耕種基準 を一般農家に、いかに浸透させ、とうもろこし増産に 結びつけるかということである。本事業ではこのため の普及方法として「パイロット集落方式」を採用した。 ○パイロット集落方式 1. 場所：コキトムおよびサムロントン両村 2. 規模：全面積を100haとし、20haを単位と する5集団を形成 3. 方式：契約栽培方式をとり、契約農家に対して、 トラクターによる質耕および肥料の低価格配布を 行い、増収分のとうもろこしで返済させる。また、 生産されたとうもろこしは全量SOCTROPICへ 売却する。 4. 管理・運営：20haごとに部落の有力者の責任 者に任命し、直接の監督・指導は、この責任者と カウンターパートが行う。また肥料の配布、とう もろこしの集荷はこの責任者を通じて行う。	42	実施調査		3	2,003				2,003	
		43						3	2,009	21,488	23,497
		44						3	13,378	21,420	34,798
		45					506	3	7,830		8,336
		46							1	1,480	1,480
		47						1	6,141	869	7,010
		48						1	5,958		5,958
		49					⊕ 35	1	6,097		6,132
		50					⊕ 17	1	1,273		1,290
		協定等の種類： (延長) 署名年月日： 協力期間：46.11～ 49.11									
協定等の種類： (再延長) 署名年月日： 協力期間：49.11～ 52.11											
実施調査：42.12.10～ 43.3.23											

カンボ  
ディア

カンボディア

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団			専門家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)
				人数		経費	人数		経費		
				継続	新規	千円	継続	新規	千円		
	昭和44年度は、各専門家とも着任早々のため、コキトム、サムロントン両地区農家と契約によるトラクターの賃借が主要業務であった。昭和45年度は、本格的なパイロット集落方式による普及活動を行うべく準備したが、昭和44年度末の政変による事態悪化のため普及活動の展開は不可能となり、昭和45年6月末、全専門家はバンコクへ退避、同年8月末には全専門家は日本へ引き上げるに至った。										

開発技術協力事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団		専門家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)
				人数	経費	人数	経費		
				継続	新規	千円	千円		
木材開発協力 協定等の種類： (協定締結に至らず)  署名年月日： 協力期間：  実施調査：45.1~45.2	カンボディアの西海岸地域、すなわち、カルダモン ならびにエレファント山脈とシャム湾海岸線に囲まれ た地域は、交通が不便であったため、未開発の熱帯降 雨林でおおわれていた。しかしながらコロンボンソム 港を中心とした開発が進み、かつ、カンボディア産材 に対するわが国の需要増加によって、大規模資本による 森林開発が計画された。  すでにこの地域においては1962年以来、わが国の民間 資本により小規模の伐採が行われ、更に大がかりな 開発が始められようとしており、今後急速に伐採が進行 するものと予想された。このような背景のもとに、 カンボディア国政府は、この地域の森林の保全、伐採 跡地問題、特に、更新問題に非常な関心をもち、この 面での技術協力をわが国に要請してきた。  わが国はこれに応え、昭和45年1月、6名からなる 実施調査団を派遣した。カンボディアでの調査は、 SOKECIAのチョルスマイ事業地を主として、この 他 SOKECIAのチェコ事業地、SKEFのコンボンソム 事業地の一部、キリロム高原のマツ林の調査を実施 した。	44	実施調査		6	5,894			5,894

カンボディア

開発調査事業

カンボディア

№	プロジェクト名	概 要	年 度	調査の 種 類	調 査 期 間	調 査 団 派遣人員	経費実績 (千円)
1	とうもろこし開発計画調査	とうもろこしの新産地育成及び既耕地での増産の可能性、合弁企業設置の経済可能性の調査。	38	投	38.12.17～39.2.4	8	6,283
			39	〃			406
2	かんがいおよび森林開発計画調査	かんがい計画及び森林開発計画に関する基礎調査。	38	投	39.3.29～39.5.7	12	4,300
			39	〃			6,482
3	ブノンベン新港建設計画調査	老朽化したブノンベン港に代りメコン河本川に新港を建設する計画を策定するため技術的、経済的調査。	39	投	39.6.30～39.9.16	7	8,413
4	チュルイ・スマイ(サミット)港建設計画調査	ココン州一帯の森林資源開発事業における木材積出し港としてのサミット港建設のための調査。5,000 ton 級 1 バース、3,000 ton 級。 1 バースの建設を勧告。43年度は港建設のための、ボーリング調査を実施。 44年度は国内作業(比較設計、詳細設計および報告書作成)を実施。	41	投	42.2.26～42.3.29	8	5,547
			42	〃			3,169
			43	実 施	43.12.29～44.2.23	7	15,092
			44	〃			6,234
5	沿岸漁業資源開発計画調査	沿岸水産資源の調査及び特にコンボンソム湾を中心とするエビ、カキの生棲状態及び具体的な漁業試験調査とその企業性について調査。	42	投	42.5.28～42.7.5	6	5,434
			43	〃			9,031
			44	〃	2,672		
6	電気通信放送網拡充計画調査	経済社会開発第2次5ヶ年計画(1968～1972)の一環として電気通信の各施設の整備拡充に関する基本計画を策定し、その実施に必要な措置を勧告、第2次調査を45年度に実施する予定であったが、同国の政情にかんがみ中止。	44	投	44.12.7～45.1.24	6	7,472
			45	〃			1,028
7	ブノンベン放送施設拡充計画調査	ラジオ放送のサービスエリア、放送番組および製作技術の改善を目的として施設の整備拡充をはかるため。 46年度のフィージビリティ調査の報告書提出および市内電話網の現状調査。	46	実 施	46.9.8～46.10.2	4	3,975
			47	報 告			48.3.26～48.4.3

中華人民共和國

中華人民共和國

1. 総括実績

(1) 形態別・年度別

形態	29-50		51		52		53		累 計	
	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)
1. 研修員受入れ							3,304	11	3,304	11
2. 専門家・調査団							9,410	14	9,410	14
(1) 専 門 家										
(2) 調 査 団							9,410	14	9,410	14
3. 協 力 隊										
4. 機 材 供 与										
5. そ の 他										
合 計							12,714		12,714	

中華人民共和國

(2) 形態別・分野別

形態	分 野																人数累計 (人)	経費累計 (千円)
	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉄 業	軽 工 業	化学工業	公益事業	運 輸	郵 政	厚 生	原子力	経営技術	教 育	行 政	そ の 他		
研 修 員 受 入			11														11	3,304
調 査 団 派 遣									14								14	9,409
専 門 家 派 遣																		
協 力 隊 派 遣																		
機 材 供 与																		
そ の 他																		
合 計																		12,713

2. 事業別実績  
研修員受入事業

中華人民共和國

分野 年度	計 (人)	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉄 業	軽 工 業	化学工業	公益事業	運 輸	郵 政	原 生	原子力	経営技術	教 育	行 政	そ の 他	金額 (千円)
53年度	11			11														3,304

開発調査事業

№	プロジェクト名	概 要	年 度	調査の 種 類	調 査 期 間	調 査 団 派 遣 人 員	経費実績 (千円)
1	中国鉄道近代化計画調査	北京～天津(157 km)、北京～鄭州(695 km)の両区間に関する鉄道の ① 電化 ② 運行速度の大幅アップ ③ 座席予約運行指令 ④ 保線、信号の機械化についての事前調査	53	事前	54. 2. 9～54. 3. 17	14	9,409



(

イ シ ド

(

.

イ ン ド

1. 総括実績

(1) 形態別・年度別

形態	29-50		51		52		53		累 計	
	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)
1. 研修員受入れ	615,125	1,304(132)	80,672	56(7)	64,735	57(7)	117,337	80(23)	877,865	1,497(169)
2. 専門家・調査団	1,468,326	336	18,676		10,185	5	3,242	4	1,500,429	345
(1) 専 門 家	1,297,532	184	1,439		5,698	5	1,352		1,306,021	189
(2) 調 査 団	170,794	152	17,237		4,487		1,890	4	194,408	156
3. 協 力 隊	388,260	128	8,167	1	16,305	2	7,128		419,860	131
4. 機 材 供 与	941,202		3,739		1,190				946,131	
5. そ の 他	3,725				1,387		494		5,606	
合 計	3,416,636		111,254		93,800		128,201		3,749,891	

(2) 形態別・分野別

形態	分 野																人数累計 (人)	経費累計 (千円)
	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉄 業	軽 工 業	化 学 工 業	公 益 事 業	運 輸	郵 政	厚 生	原 子 力	経 営 技 術	教 育	行 政	そ の 他		
研 修 員 受 入	452(25)	83(1)	103(17)	67(11)	13(3)	156(8)	22(3)	25(3)	93(9)	53(10)	65(7)	8(8)	45(17)	38(2)	208(24)	66(21)	1,497(169)	877,865
調 査 団 派 遣	18								9		3				4	122	156	194,408
専 門 家 派 遣	121	24	4		1	8	1		5	1	13		2	4	2	3	189	1,306,021
協 力 隊 派 遣	84	1				9		1	2	2	13			17		2	131	419,860
機 材 供 与																		946,131
そ の 他																		5,606
合 計																		3,749,891

2. 事業別実績  
研修員受入事業

イ ン ド	年 度	分 野																金 額 (千円)	
		計 (人)	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉄 業	軽 工 業	化学 工業	公益 事業	運 輸	郵 政	厚 生	原子 力	経営 技術	教 育	行 政		そ の 他
	29年度	45(1)	29(1)	3				12										1	
	30 "	24	6	2		2		12	1		1								
	31 "	62(3)	22(1)	4(1)		5		14(1)		6				9	2	2			
	32 "	27(3)	5	4	1(1)			12				1				3(2)	1		
	33 "	43(7)	12	5	1	2		14					3(3)		1		5(4)		101,389
	34 "	115(5)	42	9	3	9(4)		28	9	1		2				1(1)	1		
	35 "	71(6)	30(2)	3	2	3		5(1)	1		1	2(1)		3(2)	20	1			
	36 "	39(3)	8	6	6(2)			4	1	4	1		1(1)		3	4	1		
	37 "	41	10	8	7			7		3	2					3	1		
	38 "	55(7)	27	2	3(3)			6	2	3(1)	4(2)	3(1)			1	2	2		
	39 "	88(9)	19	3	2(1)	23(1)		1	3	1	4	2		4(4)		25(3)	1	25,699	
	40 "	41(9)	9	1	6(4)		1(1)	4	1	1	3	5	2(1)	2(2)	1	4(1)	1	17,724	
	41 "	65(7)	19(1)	8	4(1)	2	3(1)	4(1)	1	4	4	4(2)	3	1		6	2(1)	37,730	
	42 "	67(6)	24(1)	1	5	6		1	2	12(2)	6(3)	2				7	1	37,315	
	43 "	72(4)	24(2)	10	2(1)	1		2		9	4	1		1	1	15(1)	2	33,328	
	44 "	60(10)	16(1)	2	3(2)	4(1)		3		7	2	7(1)		3(2)		10(3)	1	37,351	
	45 "	76(17)	18(1)	2	5(1)	1	1	2		6(3)	3	7	2(2)	5(4)	4	14(2)	6(4)	37,582	
	46 "	50(12)	18(6)		1		2	3		5(1)	2	5		3(2)		7	4(3)	32,106	
	47 "	65(9)	27(1)	4	4			4(2)	1(1)		2	2		4		7	10(5)	44,954	
	48 "	62(6)	15(2)	2	5	1	1	4(1)		1	3	2	4	1(1)	4	14	5(2)	54,765	
	49 "	65(5)	17(2)	2	6		2	4(1)			4	1	7(1)	2		16	4(1)	74,840	
	50 "	71(3)	21	1	7	1(1)		2	3(1)	2	3	2	6	1(1)	1	17	4	80,340	
	51 "	56(7)	10(1)		5	5	4(2)	2	2(1)	3	2		3	2(1)	2(1)	18(1)	3	80,672	
	52 "	57(7)	9(1)		10	1		2	2(1)	3(1)	8(2)	1	5(2)	1	1	8	6	64,733	
	53 "	80(23)	15(2)	1	3(1)	4(2)	1(1)	4	3	3(2)	9	6(3)	1		2(1)	24(10)	4(1)	117,337	
	49～合計	1,497(169)	452(25)	83(1)	107(17)	67(11)	13(3)	156(8)	22(3)	25(3)	93(9)	53(10)	65(7)	8(8)	45(17)	38(2)	208(24)	66(21)	877,865

専門家派遣事業

年 度	分 野	計 (人)	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉄 業	軽 工 業	化学 工業	公益 事業	運 輸	郵 政	厚 生	原子 力	経 営 技 術	教 育	行 政	そ の 他	金 額 (千円)
30年度		3	1	2															
31 "		4		4															
32 "		4	3															1	
33 "		7	1	4				1			1								
34 "		5	1		1			3											73,338
35 "		14	5	3	3			2	1										
36 "		7	4										3						
37 "		6	5									1							
38 "		5	3												2				
39 "		3	2								1								7,251
40 "		7	5					1										1	9,873
41 "		6	5					1											4,144
42 "		4		3														1	10,739
43 "		3									3								16,646
44 "																			11,191
45 "		1														1			750
46 "		1														1			4,416
47 "		1													1				8,098
48 "																			7,256
49 "		1													1				12,304
50 "																			4,816
51 "																			1,792
52 "		3						1									2		4,052
53 "																			1,317
30～合計		85	35	16	4		1	8	1		5	1	3		2	4	2	3	177,983

イ  
ン  
ド

青年海外協力隊派遣事業

イ  
ン  
ド

年 度	分 野	計 (人)	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉱 業	軽 工 業	化学 工業	公益 事業	運 輸	郵 政	厚 生	原子 力	経 営 技 術	教 育	行 政	そ の 他	金 額 (千円)
41年度		9									2		7						7,694
42 "		13	7	1								1	1			3			15,869
43 "		18	13					5											31,422
44 "		38	30					2				1	3			2			66,444
45 "		20	14							1						5			100,753
46 "		16	13					2								1			100,500
47 "		10	4										2			2		2	35,514
48 "																			40,360
49 "		4	3													1			24,872
50 "																			7,223
51 "		1														1			8,315
52 "		2														2			18,176
																			7,359
41～合計		131	84	1				9		1	2	2	13			17		2	464,501

機材供与事業

№	機 材 名	機 材 供 与 先	年度	機材供与経費(千円)
1	稲作生理研究機材	オリッサ州、カタック中央稲作試験場	47	5,984
2	地震測定機材	中央水資源電力資源開発研究所	50	20,359

技術協力センター事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)										
				人 数		経 費	人 数				経 費									
				継続	新規	千 円	継続	新規			千 円									
西ベンガル小規模工業 技術訓練センター 協定等の種類：協定  署名年月日：35.1 協力期間：35.1～ 実施調査：33.4 ～1カ月	昭和33年度に通商産業省の所管として、インドの西ベンガル中小工業技術訓練センター設置予算が計上されて、はじめて海外技術協力センターの構想が、具現し、その第一歩をふみ出した。  本プロジェクトは、インド中小規模機械工業の振興のため、熟練工、技術者の訓練、産業機械を中心とするプロジェクトタイプの開發生産、中小規模機械企業向けの特種機械の設計を目的とするもので、昭和33年4月実施調査団6名を約1カ月にわたり派遣し、鐵事路に署名。昭和35年1月設置協定に基づき機械設備(265百万円)供与および指導技術者20人の3年間の派遣を行った。  なお、実施については、通産省予算により、日本機械工業連合会に委託実施された。	33	実施調査		6															
水産加工技術訓練センター 協定等の種類：協定 (水産加工に関する技術訓練センター設置協定)  署名年月日：37.3.31 協力期間：37.3.～40.3	昭和35年3月、インドより農業次官補、マイソール州漁業局長等よりなる漁業調査団が来日し、インド国内における漁業活動の発展、普及および食生活の改善等の見地から、水産加工についての技術援助の要請があった。わが国は、この要請を検討した結果、冷凍フィッシュ・ソーセージおよび罐詰製造を含む水産加工に関する技術者の訓練、養成について協力を行うこととなり、昭和36年7月調査団を派遣して、現地調査ならびにインド側と協議をした結果、マイソール州マンガロール市に水産加工に関する技術訓練センターを設置することに決まり、昭和37年3月協定が正式	35	実施調査		※3	※1,672														
												36						46,615		
												37					7	7,665	2,557	
												38					7	20,715		
												39					7	20,350		
												40					7	1	18,869	13,000
												41					5		11,869	
42					5	※3	8,106													
43					※4		...													
44					※4		336													

イ  
ン  
ド

技術協力センター事業

イ ン ド	プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団			専門家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)						
					人数		経費	人数		経費								
					継続	新規	千円	継続	新規	千円								
	(延長) 40.3~ 42.6 開所式: 38.12. 30 実施調査: 36.1. 14~36.2.24 (専門家派遣事業により派遣)	<p>に調印された。</p> <p>本センターはインド国内における水産加工の幹部技術者養成を目的とするもので、このため訓練については多数科目の皮相的な訓練を避けて少数科目の製造加工方法の習熟を主眼とし、水産製造加工理論を教えるとともに罐詰、冷凍、フィッシュソーセージの各部門について機材設備の構造、取扱い、組立、分解および製造加工実習の訓練を行った。</p> <p>本センターの当初の協定は昭和40年3月をもって終了したが、本センターの効果をインド側は高く評価し、その延長を強く要請してきたので、さらに協定期間を昭和42年6月まで延長した。さらに協定満了後もコロンボ計画により4人の専門家を2カ年の任期で派遣し、昭和44年6月、本センターがマイソール州立農科大学水産学部昇格に伴いインド側に引継いだのを機に専門家は全員帰国、本センター協力は完全終了した。</p> <p>[カウンターパート受入]</p> <table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>37</td> <td>40</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>5人</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> </table>	年度	37	40	44	人数	5人	4人	4人								
年度	37	40	44															
人数	5人	4人	4人															

保健医療協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家		機材供与経費 (千円)	主要機材		
				人 数		経 費					
				継続	新規	千 円	千 円				
らい 研 究 協定等の種類：R/D 署名年月日：47.7.25 協力期間：47.4.4 ～50.3 フォローアップ：50.4 ～53.3 実施調査：47.2.20 ～47.3.7 エバリュエーション調査： 51.2.24～51.3.9 国内協力機関： 大阪大学微生物学研 究所 財アジア救らい協会	インドにおけるらい対策の一環として(財)アジア 救らい協会は、昭和38年にインド政府と取り交した 協定に基づき、アグラ市にJAIMAセンターを設立し 医療チームを派遣し、民間ベースによる医療協力とし て診療活動を進めてきた。 昭和41年度からは、政府ベースの技術協力の一環 として医療協力を開始した。 昭和41年度には電子顕微鏡、昭和42年度には外 科手術用器材等の機材を供与し、またらい菌研究専門 家等を派遣し、本センターのらい治療、社会復帰、教 育、研究の四分野の活動に協力している。 R/Dによる本プロジェクトの協力は、昭和49年 度で終了し、昭和50年度より3年間のフォローアッ プ協力を実施した。	41						16,511	電子顕微鏡		
		42					1	...	12,888	外科手術用器材	
		43							3,935		
		44									
		45									
		46	実施調査		3	1,889					
		47					2	2,359	385 11,006	蛍光顕微鏡	
		48					2	3	10,495	1,066	
		49					3		11,679	293 6,556	電子顕微鏡
		50	エバリュエーション調査		3	2,290	2	2	13,245	873 4,237	超音波破砕器
		51				80			1,831		
巡回指導 調査期間：49.1.17 ～49.2.5	(インド、スリ・ランカ、タイ) アジア一般を参照のこと。	48	巡回指導		(4)	(953)					
医療機材修理班 調査期間：48.11.29 ～48.12.22	(インド、アフガニスタン、イラン、ケニア) 世界一般を参照のこと。	48	機材修理		(4)	(1,391)					

イ  
ン  
ド



保健医療協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	主要機材
				人 数		経 費	人 数		経 費		
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円		
医療機材修理班 調査期間：50.12.9～50.12.23	(インド、イラン) アジア一般を参照のこと。	50	機材修理		(3)	(1,518)					
医療機材修理班 調査期間：52.2.8～52.2.27	(インド、アフガニスタン) 世界一般を参照のこと。	51	機材修理		(5)	(3,658)					
		52				57					
医療機材	(タイ、インド) アジア一般を参照のこと。	52	修理指導		(6)	(4,249)					
(大学教授)	がん疫学 派遣期間：53.3.26～53.4.23	52					⊕2	1,844	100		
		53					⊕2	35			

農林業協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)	
				人 数		経 費				
				継続	新規	千 円	千 円			
農業技術センター(模範農場) 協定等の種類: 協定 署名年月日: 37.4.23 協力期間: ナディア、サンバルプール、シャハバード、スラートの農場: 37.4~42.4 マンディア、ケララコポリ、チェンガマナードの4農場: 39.12~43.12 事前調査: 36.2.27~36.3.31 実施調査: 36.11~ 実施調査: 38.3.3~38.3.31 実施調査: 39.3.8~ 巡回指導: 41.1~ エバリュエーション調査: 42.3.10~	昭和34年フォード財団はインド政府に協力して、農業増産に関する調査を行い、集約農業地域計画をたてることを勧告すると共に、本計画に対しとくに小型農機具の分野において日本の協力を得るよう助言した。これに対しインド政府は独自の農業計画をたてた。同計画の一環として日本式稲作のモデル農場の設置を希望してきた。この要請に対し、わが国は農業技術者5名よりなる調査団を派遣し、その結果、さらに同年11月、農業技術センター設置のための実施調査団を派遣、現地調査等を行った結果、西ベンガル州ナディア地区、オリッサ州サンバルプール地区、ビハール州シャハバード地区およびグジャラート州スラート地区の4カ所に模範演示農場を設置することに決定、昭和37年4月に協定が正式に調印された。 この協定調印に従い、わが国は総額3,696万円におよぶ農機具、車輛、実験器材、計器、観測器具、視聴覚機材等の機材を無償供与するとともに1農場4名、計16名の技術専門家を派遣した。 本センターはインドの当面する食糧不足に生産増加の面からもっとも効果的であるとともに、農機具利用による水稻の模範栽培を演示することにより、農民の技術水準向上を計らんとするものであり、他の若干の調査・実験と農民への巡回指導を行っており、技術者の訓練を中心とする他のセンターとはその性格上大きな相違を示している。 (昭和42年度以降については「農業協力事業」を参照のこと。)	35	事前調査	※5	...					
		36	実施調査		4	2,202		※4	...	
		37	実施調査		※5	...	※4	12	29,108	36,940
		38	実施調査		5	2,890	16		36,853	
		39	実施調査		5	1,092	16	18	46,472	46,901
		40	巡回指導		※5	※4,454	28		93,049	12,489
		41	エバリュエーション調査		※5	...	28		82,913	
		42			※4	...	28		55,822	1,557
		43					16		14,445	

イ  
ン  
ド

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)	
				人 数		経 費				
				継続	新規	千 円	千 円			
イ ン ド  ①ヴィアラセンター、 アラールセンター 43.3.5 ②コポリセンター、 マンディアセンター 43.7 協力期間： ①ヴィアラセンター、 アラールセンター 43.3～47.3 ②コポリセンター、 マンディアセンター 43.12～47.12 協定等の種類：協定 (延長) 協力期間： ①ヴィアラセンター、 アラールセンター 47.3～50.3 ②コポリセンター、 マンディアセンター 47.12～50.12 巡回指導：42.12.4 ～43.1.5	昭和37年及び昭和39年にインド政府との間に締結した1次、2次協定にもとづきインド国内に日本式稲作技術の模範演習を目的として8ヶ所に模範農場を設置し協力してきたが、一応の成果を収め、昭和42年、昭和43年の両年に協力期間を終了した。(技術協力センター事業を参照)。	42	巡回指導		7	4,985			4,985	
	43	巡回指導		7	4,805 <sup>48</sup>		14	26,708	65,845	97,406
	44	巡回指導		1	4,250 <sup>656</sup>	13	1	50,358	41,407	92,651
	45	巡回指導		4	3,453 <sup>586</sup>	15	5	60,133	47,007	113,878
	ク	計画打合せ		2	1,096 <sup>◎</sup>					
	ク	計画打合せ		外 2+(1)	1,603					
	46	巡回指導		3	3,078 <sup>◎</sup>	20	8	64,713	19,053	90,468
	ク	実施設計 調査		4	3,240					
	47	(同上17年度分)			1,754					
	ク	実施計画 調査		14	2,285 <sup>◎</sup> 6,914	24	8	64,432		75,385
	ク			2						
	48	巡回指導		6	4,519 <sup>◎</sup> 612	21	2	101,383	38,994	145,508
	49	巡回指導		5	3,716 <sup>◎</sup> 476	22	7	110,218	51,493 <sup>◎</sup> 51,541	166,447
50				267 <sup>◎</sup>	24		47,872	30,999	79,138	
51							775	775		

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)
				人 数		経 費	人 数		経 費		
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円		
巡回指導 44.2.10 ~ 44.3.19 巡回指導: 44.10.1 ~44.10.30 巡回指導: 45.8.19 ~45.9.24 計画打合せ: 45.10 14~45.11.8 計画打合せ: 46.3. 20~46.4.11 巡回指導: 46.9.6 ~46.10.24 実施設計調査: 47.3. 14~47.5.2 実施計画調査: 47. 10.29~47.12.2 47.9.26~47.10.11 巡回指導: 48.10. 25~48.12.3 巡回指導: 49.9.23 ~49.10.20											
ダンダカラニア農業 開発 協定等の種類: 協定 (農業技術協力に關する協定)	ダンダカラニア開発事業は旧東パキスタンからの難民救済と原住部族の定着をはかるためインド政府直轄事業として実施されてきた。 本事業に対する協力要請は昭和42年12月インド農業普及センター第7次巡回指導調査団の訪印以来、	44	事前調査		5						
		44	実施設計調査		12		28,726				28,726
		45	(同上報告書)				1,475				
		45	計画打合せ		2		1,096	6	12,462	65,595	80,628
		46	実施設計調査		8		21,121 <sup>339</sup>	6	23,115	56,034	100,609

インド

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団		専門家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)		
				人数		経費					
				継続	新規	千円	千円				
イ ン ド 署名年月日：45.8.19 協立期間：45.8～50.8（5カ年） 基礎（事前）調査：44.7.7～44.8.7 実施設計調査：44.11.25～45.2.14 計画打合せ：45.9.28～45.10.5 実施設計調査：46.4.8～46.5.17 実施計画調査：48.11.13～48.12.5 エバリュエーション調査：50.6.1～50.6.30	インド政府から再三行われた。わが国はこれに応じ昭和44年7月に予備調査、同年11月実施設計調査を行い次の協力基本計画を策定した。 a 村落開発のため、パラコート地区パカンジョール幹線水路の水掛り地域にモデル地区を設け、圃場整備の実施、営農技術の改善ならびに普及により農業生産力の拡大と農民の生活向上をはかる。 b パカンジョールの幹線水路の改良および幹線水路沿いの120エーカーの台地灌漑施設を設ける。 c ミックスド・ファーム（Mixed farm）内の圃場整備、同ファーム内において営農技術の改善を行うとともに地域農民並びに普及員の訓練を行う。 d パラコート・ダムの水路系統の設計につき技術指導を行う。 前記の基本計画に沿って、日印政府間において昭和45年8月19日農業技術協力に関する協定を締結し、5カ年間にわたる協力を開始した。本協力のための専門家の派遣、所要機材の供与および巡回指導調査などを行ってきた。	47			⊕ 697	6	2	28,096	5,259	34,052	
		48	実施設計調査		3	⊕ 2,175	8		28,610	30,962	61,920
		49				⊕ 215	6	2	46,361	47,279	93,855
		50	エバリュエーション調査		4	⊕ 372 ⊕ 6,005	8		22,867	79,617	108,859
		51								666	666
農業研究協力 協定等の種類：協定 （協定交渉中） 署名年月日： 協力期間： 事前調査：46.11.21	インドにおける食糧生産は不安定な気候条件、低い水準のもとにおかれた農業技術等により極めて不安定な条件下にある。特に主穀たる米については、病虫害被害による生産減がかなり大きな影響を与えている。また一方では、食生活のレベルアップをはかるため、野菜、果樹等園芸生産物の増産に対する需要も強まり	46	事前調査		5	3,804				3,804	
		47	（同上報告書）			⊕ 110				} 4,934	
		47	実施計画調査		8	4,824					
		48	計画打合せ		5	2,444				2,444	
		49				⊕ 487				487	
		50				⊕ 177				177	

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)
				人 数		経 費			
				継続	新規	千 円	千 円		
～ 46.12.17 実施計画調査： 47.11. 2～ 47.11.12 47.12.16～ 47.12.29 計画打合せ： 48.12.12 ～ 48.12.21	つつある。 本計画はこれらの情勢に対処するためインド政府の 要請により次の課題について共同研究を行うものであ る。 ① 病虫害部門では、(a)メイチュウに関する研究、 (b)ヨコバイおよびイネツングロウイルスに関する 研究、(c)イネ白葉枯病に関する研究、(d)イネシン トメタマバエに関する研究 ② 園芸部門では、(a)野菜の一代雑種子生産方法に 関する研究、(b)柑橋類の栽培方法に関する研究、 (c)落葉果樹の栽培技術に関する研究	51			⑤ 29				29
乾燥地域農業基礎調査 調査期間： 51.2.15 ～ 51.3.14	(インド、アラブ首長国連邦、クウェイト、エジプ ト) 世界一般を参照のこと。	50	基礎調査		(5)	(3,374)			(3,374)
		51	(同上報告書)		⑤	(213)			213)
先進国農業協力実態 調査	(インド、マレーシア、カナダ) 世界一般を参照のこと。	52	実態調査		(5)	(1,248)		(86)	(1,354)

イ  
ン  
ド

開発調査事業

№	プロジェクト名	概 要	年 度	調査の 種 類	調 査 期 間	調 査 団 派遣人員	経費実績 (千円)
1	東南アジア・デルタ調査	アジア一般を参照のこと(ビルマ、タイ、インド、台湾、パキスタン)。	37	投	37.10.20～38. 2. 9	( 3 )	(613)
2	国鉄交流電化計画調査		32		32. 6.	3	1,728
3	オリッサ州総合開発調査	鉄鉱、マンガン鉱等の開発、積出港であるバラディップ港の拡張、石炭化学、発電等の総合調査。 (海外開発計画調査事業を参照のこと。)	37	投	37.11.15～38. 2. 6	9	6,231
4	技術協力調査	ここ数年途絶していた対印協力に関し、各種経済協力要請が出されており、これに応えるべく協力の問題点、及び今後の進め方について「イ」国と意見交換を行った。 なお、技術協力の意見交換分野は農業関係のみ。	53	事 前	53. 7. 2～53. 7.10	4	1,659

海外開発計画調査事業

№	プロジェクト名	概 要	年 度	調査の 種 類	調 査 期 間	調 査 団 派遣人員	経費実績 (千円)
1	オリッサ州総合開発調査	鉄鋼、マンガン鉱等の開発、積出港であるバラディップ港の拡張、石炭化学、発電等の総合調査。 (開発調査を参照のこと)	37	海	37.11.15～38. 2. 6	10	8,248
2	鉄鉱石積出施設調査	東海岸中央部に位置するビザカバトナム港の鉄鉱石積出施設の新計画についてその妥当性の検討と鉄鉱石積出用鉄道の現状及び改良計画調査。	42 43	海 々	43. 2.29～43. 3.20	9	5,519 1,272

インド India

首都：ニューデリー

面積	独立年月日	政体	宗教	言語	民族または人種構成	通貨	開発段階における国の分類				その他		
5,287,590 km <sup>2</sup>	1947.8.15	連邦共和国	ヒンズー教(83%) 回教(11%) キリスト教(3%)	ヒンディー語、テルグ語 ベンガル語、英語	インド人は大別して原始部族、インド-アリア族等7種族に分類されているが、その判然たる類別は困難である。	Rupee(1, Re) =100 Paisa	PDC	LIJDC	MSAC	UNCTAD	世銀	OPEC	OAPEC
							O		O	A	O		

I 国別主要指標

(1) 社会指標

① 年央推計人口

単位：1000人

年	1950	1955	1960	1965	1970	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
人口	-	369,198	429,016	482,710	538,880	565,530	575,890	588,300	600,760	613,270	631,726	643,896

② 人口増加率

単位：(%)

年	1960~1975	1970~1977
人口増加率	2.3	2.1

人口密度

人数/km <sup>2</sup>	190.4
調査年	1977

③ 出生死亡率 人口1,000あたり出生・死亡数

年	1970	1974	1975	1976	1977
出生率	42.8		34.6		
死亡率	16.7	15.5			
乳児死亡率		122.0			

④ 主要都市人口

都市	調査年	人口(1000人)
ニューデリー	1971	302
ボンベイ	"	5,971
デリー	"	3,288
カルカッタ	"	3,149
マドラス	"	2,469

(2) 経済指標

① 国民総生産・国際収支

項目	単位	年								
		1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	
GNP	総額	百万ドル			75,020	72,150	82,400	87,850	100,180	112,660
	国民1人当り	ドル			130	120	140	140	160	180
公定歩合	%	6.00	6.00	7.00	9.00	9.00	9.00	9.00	9.00	
国際収支	総合収支	百万ドル	122	-21	-112	-453	-106	2,218		
	経常収支		-643	-158	-529	1,207	-113	1,577		
	貿易収支		-375	68	-191	-625		785		
	基礎収支		54	169	-62	248				
長期資本収支		697	322	467	-959		934			
歳入		43.90	52.74	58.21	66.16	75.02	87.64	108.12	112.09	
歳出		57.31	68.46	80.09	82.99	99.76	123.19	109.58	113.96	
デッド・サービス・レイシオ	%	24.1	22.8	19.9	17.5	46.3	13.1			
国際通貨準備高	合計	百万	1,206	1,180	1,142	1,325	1,373	3,074	5,184	6,426
	金		264	264	293	298	284	282	8.36	8.36
	S D R		161	268	296	294	248	220	181	294
	IMFポジション		85	85	92					6,042
外国為替保有高	ドル	697	566	461	733	841	2,572	4,691		
公的債務残高		11,125	11,999	13,061	14,372	14,580	13,297.7	14,531		
公的債務支払高		8,897.7	9,766.3	10,399.6	11,244.7	11,558.7	13,297.7			

② 国内総生産

項目	単位	年							
		1960	1970	1973	1974	1975	1976	1977	
G D P	合計	百万ドル	31,537	53,835	74,500	80,061			94,083
	1人当り	ドル	73	100	130	137			150
G D P 指数	合計	%	68	100	105	105			
	1人当り	%	85	100	99	97			
GNP 実質成長率	合計	%	1960~1970		1970~1977				
	1人当り	%	3.6		2.9				

③ 国内総生産構成比

(通貨単位：1億ルピー) 単位：(%)

年	国内総生産(通貨単位)	政府最終消費支出		民間最終消費支出		在庫増	総固定資本形成	輸出入	
		消費支出	消費支出	消費支出	消費支出			輸出	輸入
1970	403.7	9		76			16	4	5
1973	576.8	9		75			15	5	5
1974	684.6	9		79			16	5	7
1975	729.5								
1976	771.9								
年	国内総生産(通貨単位)	農業	新工業		建設業	卸小売業	運輸業等	その他	
			合計	製造業					
1970	403.7	43	15	13		5	10	5	14
1973	576.8	45	15	13		4	10	4	13
1974	684.6	45	16	14		4	11	4	13
1975	729.5								
1976	771.9								



① 国民所得

項目	年	単位	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
国民所得総額		100万ドル		58,164	70,466	79,851	80,957		
1人あたり国民所得		ドル		103	128	156	135		

出所：国連

⑤ 年平均インフレ率

1970~77(%)
8.9

出所：世銀

③ 種類別公的対外債務残高の内訳

年現在	単位	債務残高(ディスバースメント)	債務残高(コミットメント・ベース)					公的対外債務返済額の総輸出額に占める比率				
			合計	二国間	多数国間	サプライヤー	銀行	その他	1973年	1976年	1974年	1977年
1975年12月末	百万ドル	11,538.7	14,580.1	9,061.7	5,065.0	352.8	98.6	2.0	1973年 %	19.1	1976年 %	10.9
1976年12月末		13,297.7	16,488.2	10,726.0	5,334.9	310.9	94.3	2.1	1974年 %	16.7	1977年 %	10.5
1977年12月末		14,531.0	18,759.7	12,029.4	6,351.3	276.7	100.1	2.1	1975年 %	12.6		

出所：世銀

⑦ 卸売物価指数

1970=100

単位：(%)

項目	年	1965	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
総合		76	105	113	132	169	176	172	185
* 農産物		70	101	108	129	165	170	152	171
建築材料									
繊維品		78	109	112	127	156	151	151	170

\* 食料品指数

出所：国連

⑧ 消費者物価指数

1970年=100

単位：(%)

項目	年	1965	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
総合		78	103	110	128	165	175	161	175
食料		76	102	108	131	171	179	156	171

出所：国連

③ 貿易指標

① 総合

項目	年	単位	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
輸出総額		百万ドル	2,034	2,435	2,923	3,930	4,393	5,426	6,365	
輸出依存度		%	3.6	4.0	3.9	4.7				
対日輸出額		百万ドル		407.58	574.90	658.22	657.92	801.10	715.00	793.14
輸入総額		百万ドル	2,421	2,226	3,210	5,175	6,385	5,516	6,310	
輸入依存度		%	4.2	3.6	4.3	6.0				
対日輸入額		百万ドル		259.76	338.73	594.14	471.38	376.98	579.00	730.33

出所：国連

(輸出・輸入依存度は国民総生産に対する輸出額(rob)・輸入額(eif)のそれぞれの割合)

② 主要相手国別輸出入構成

1977年

単位：(%)

輸 出	国名	米 国	日 本	英 国	西ドイツ	フランス
	シェア	12.3	11.2	9.5	4.7	4.0
輸 入	国名	米 国	日 本	西ドイツ	英 国	フランス
	シェア	14.7	9.6	9.0	8.9	5.0

出所：国連

③ 主要輸出品目の構成比

1976年

単位：(%)

品 目 名	ジュート	紅 茶
構 成 比	9	6

(4) 農業・林業・水産

① 農業生産指数 (1969~1971年=100)

単位: (%)

項目	年	1970	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
総合		102	98	107	101	113	111	117	
食料		102	97	107	100	114	111	117	

出所: FAO 総合は食料品目の他、繊維、茶、コーヒー、煙草、工業用油料種子及びゴムを含む。

③ 農林業用地・生産

項目	年	単位	1974年	1975年	1976年	1977年	1978年	備考
総面積		ha			528,759			(含む内水面)
耕地		"	160,700	162,500	164,800			(二毛自地は1回のみ計上)
樹林地		"	4,370	4,700	4,080			(長植地)
牧場・牧草地		"	13,000	12,550	12,950			(5年以上使用のもの)
森林		"	65,500	67,400	65,550			(自然林、長植地)
その他		"	84,478	49,458	49,939			(建築物敷地、道路、公園、内水面)
農家人口		1000人	378,603	414,661				
(農業生産)								
米		t		39,580	48,740	41,920	52,680	
小麦		"	21,778	24,104	28,366	29,010	※ 31,330	
大麦		"			2,344	2,309		
とうもろこし		"	5,559	7,036	6,257	6,000		
馬鈴薯		"	4,861	6,225	7,287	※ 8,000		
大豆		"			120			
コーヒー		"	86.4	92.5	84	103	110	
茶		"	492.0	※ 487.0	514.4	561	※ 565	
粗糖		"			4,632	5,259	5,600	
棉花		"	1,290	1,193	1,019	1,100		

※FAO推計

④ 肥料消費

項目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
窒素肥料		1000t	1,487.1	1,829.1	1,766.0	2,031.0	2,457.0	
磷酸肥料		"	462.0	650.0	472.0	453.0	635.0	
カリ肥料		"	228.2	360.0	336.0	270.0	319.0	

※暫定数値

出所: 国連 調査年は翌年6月30日を終る肥料年度

⑥ 漁獲

項目	年	単位	1971	1973	1974	1975	1976	1977
漁獲量		1000t	1,851.6	1,958.0	2,255.3	2,328.0	2,400.0	

出所: FAO

② 1人あたり食糧生産指数

年	1969~71=100%
1975~77年平均	99

出所: 世銀

項目	年	単位	1974年	1975年	1976年	1977年	1978年	備考
象 煙 草		1000t	462.1	363.1	350	414		
天然ゴム		"	128.4	136.0	147.8	152		
馬		1000頭	900	900	980	900		
牛		"	179,900	180,114	181,892	181,651		
豚		"	6,900	6,981	8,752	8,834		
羊		"	40,000	40,693	40,352	40,432		
羊毛		1000t	55	※ 31.0	35	32.7		
皮革		"		366,049	883,720	901,250		
牛乳		"	8,492	8,585	8,400	8,424		
鶏卵		"	82.0	82.6				
砂糖		"	4,792	4,262	4,840	6,482		
バナナ		"	3,200	3,200	3,450			
ジャート		"	887	803	1,196			
コブラ		100t	3,500	3,500	3,500			
原木		100万立方	125.3	125.3	127.5			
大麦		t			3,196	3,000		
落花生		1000t			5,262	5,300		

出所: 国連 FAO

⑤ 立木伐採

項目	年	単位	1970	1972	1973	1974	1975	1976
総計		1000m <sup>3</sup>	110,770	116,610	116,610	121,792	127,465	※ 130,947
工業用材		1000m <sup>3</sup>	9,770	10,610	10,610	11,622	12,180	※ 12,769

出所: FAO

※推計

(5) 鉱・工業・エネルギー

① 鉱・工業生産指数 1970 = 100

(単位:%)

項目	年	1960	1965	1971	1973	1974	1975	1976	1977
総合(建設を除く)			85	103	112	114	119	132	139
* 鉱業			88	103	105	115	127	157	157
製造業			88	102	112	112	116	129	136
電気・ガス・水道			56	107	118	126	138	160	165
建設									

\* 原油及び天然ガスも

出所: 国連

③ 鉱業生産

品目	年	単位	1973	1974	1975	1976	1977	備考
石炭		1000 t	77,250	91,600	102,700	104,870	108,294	
原油		"	7,198	7,490	8,283	8,659	10,151	
天然ガス		100 万 m <sup>3</sup>	5,732	6,682	8,509	10,625		
マンガン鉄		1000 t	559.1	556.9	575.4	683.3		
鉄鉱		"	22,262	22,265	26,602	27,165		
銅		"	17.2	20.8	28.8	49.8	57.1	
* 亜鉛		"	14.7	18.7	22.7	26.7		
錫		t						
マグネサイト		t			314	330		
ボーキサイト		1000 t	1,292	1,114	1,448	1,437		
クローム		"	141.5	194.1	242.2			
金		kg	2,946	1,711	1,611	2,211		
銀		t	4	5	3			
精製鉛		1000 t	146	445	486	682		
タンクステン		t	17	15	25	29		
鉛		1000 t	7.3	10.5	12.3	12.1		
ダイヤモンド(工業用)		1000カラット	4	4	4	3		
"(装飾用)		"	17	17	16	17		

\* 精製に含有されるもの。

出所: 国連

⑤ 原材料消費

品目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977	備考
鋼		1000 t	6,452	8,232	8,449	8,413	8,202		
錫		t	4,800	4,600	3,000	2,850	3,000		
ゴム		1000 t	86.5	125.3	133.5	129.1	133.5		
合成ゴム		"	51.8	24.7	21.6	51.8	33.4		
棉花		"	1,127.5	1,271.6	1,254.3	1,311.8	1,214.2		
* 羊毛		100 t	23.0	15.1	...	...	22.1		

\* 家内工業の消費高を除く。

出所: 国連

② 主要資源埋蔵量

品目	年	単位	埋蔵量			備考
			1972	1975	1976	
石炭		100 万 t	80,953			
経済的埋蔵量		"	21,365			
付加的資源		"	59,588			
原油		100 万 t		141	396	
天然ガス		10 億 m <sup>3</sup>		88	99	
天然ウラン		1000 t		3,400		ウラニウム(1977年1月)5万トン

④ 工業生産

品目	年	単位	1973	1974	1975	1976	1977	備考
煙草		100 万本	62,499	60,488	60,064			
小麦		1000 t			449	449		
小生糸		1000 t	10.5	13.3	...			
* 1毛織物		100 万 m	18	25	38			
* 1綿糸(箱)		1000 m t	998.2	1,007.0	1,049.0	1,105.0	1,658.0	
織物(絹文織)		100 万 m	7.833	8,285	8,034			
チソン肥料		1000 t		1,185	1,535	1,900	2,015	
ガソリン		1000 t	1,647	1,290	1,222	1,314		
液化石油ガス		"			320	354		
重油		"	10,049	11,361	12,203	12,090		
灯油		"	3,482	2,985	3,360	3,709		
硫磺		"		1,417	1,416	1,650	2,082	
錫		トン						
亜鉛		1000 t	12.5	21.1	25.7			
アルミニウム		"	154.3	126.6	187.3	208.7	178.5	
銅		"	12.0	11.8	16.3			
鉄鉄・合鉄		"	7,518	7,445	8,558	9,966	10,036	
粗鋼		"	6,872	6,704	7,884	9,310	9,820	
セメン		"	15,006	14,265	16,255	18,684	19,185	
* 2自走車		1000 台	49.55.0	47.0	42.0			
* 4ラジ		"	40.3.42.3	41.6	38.0			
		"	1,655	2,112	1,542			

\*1 工場生産高のみ。

\*2 武器工場による生産高は含まれない。

\*3 (商): 車輪型トラクターを除く。

\*4 番音器つきラジオを除く。

出所: 国連

⑥ エネルギー・生産・消費

単位: 石炭換算 100 万 t

項目	年	1960	1970	1973	1974	1975	1976	1977	備考
生産			87.57	93.60	100.53	114.62	121.09		
消費			96.80	116.54	117.71	127.56	132.97		
1人あたりキログラム			* 191	201	221	218			

\* 1972年

⑦ 発 電

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
発 電 量		KWh 100万	61,212	72,796	75,678	85,613	95,335	
(内 水 力)		"	25,263	28,982	27,882	33,247		
1人あたり発電量		KWh		121		143	156	
発 電 能 力		KW 1000		16,889		22,172	23,689	
原 子 力 発 電		KW 100万	2,417		2,206	2,627	3,253	

出所：アジア開発銀行

(6) 運 輸

① 道 路

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
道 路 延 長		Km				1,189,006		1,190,234
舗 装 道 路 延 長		Km				251,958		257,587
舗 装 率		%				21.2		21.6

出所：IRF

③ 鉄 道 輸 送

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
車 両 数		台						
機 関 車		"		11,066		11,095		
客 車		"		27,993		28,523		
貨 車		"		369,018		381,841		
輸 送 量		100万						
旅 客		人・Km (100万)	113,389	135,530	135,660	126,259	148,769	163,840
貨 物		トン・Km (100万)	127,407	122,391	122.33	134.87	148.22	156.76

「車輛数」は国有鉄道。

出所：国連

② 自動車保有台数 \*1,\*2

種別	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
乗 用 車		1000台	628	670	736	757	769	
1台あたり人口		台/人				798.6	793.1	
商 用 車		1000台	414	390	417	555	628	

\*1 警察その他政府の保安機関が使用する車を含む。

出所：国連

\*2 「商用車」は特殊目的の車を含む。

④ 海 上 輸 送

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
積 荷		1000t	29,973	51,908	30,722	31,640		
換 荷		"	22,364	28,914	31,495	50,635		
入 港 船 舶		"			19,656	20,261		

「貨物輸送」は給用燃料を含む。

出所：国連

⑤ 航 空 輸 送

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
旅 客		人・Km (100万)	3,555	5,172	4,926	6,002	7,196	
貨 物		トン・Km (100万)	99	174	163.5	215	255	
郵 便		"	18.9	21.4	18.5	22.5	25.2	

出所：国連

イ  
ン  
ド

(7) その他の社会指標

① 1人あたりカロリー、蛋白質摂取量

項目	1964~1966		1972~1974		1976		1977	
	摂取量	動物性の割合	摂取量	動物性の割合	摂取量	動物性の割合	摂取量	動物性の割合
カロリー	1,992	4.9%	1,968	5.4%				
蛋白質	49.9g	9.8%	48.5g	10.9%				

イ  
ン  
ド

③ 出生時平均余命, 出生率, 死亡率

調査年	単位	男	女	平均
出生時平均寿命 1977年	才			51
人口1,000人当りの普通出生率	1960年			43
	1977年			35
人口1,000人当りの普通死亡率	1960年			21
	1977年			14

出所：世銀

② 在学率・文盲率 (15歳以上人口100に対する文盲人口の割合)

単位：(%)

項目	年	1961			1971			1975					
		男	女	平均	男	女	平均	男	女	平均	男	女	平均
在学率													
文盲率		58.6	86.8										
識字率							33			36			

出所：国連

④ 病院施設

項目	年	単位	1968	1971	1972	1973	1974	1975	1976
病院数			15,751						
病床数		床	325,500						
1ベットあたり人口		人	1,620						
医師1人あたり人口		人				4,162		4,097	3,146

出所：国連

⑤ 新聞発行・新聞用紙消費

項目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
人口1000人当り新聞発行数		部		16*	16			
用紙消費量(総計)		1000t	181.5			152.8	157.8	
1人あたり消費量		g	0.3	0.3	0.3	0.3		

\* 1972年

出所：国連

⑥ 放送受信機・電話普及率

項目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
ラジオ		台/1000	11,747	14,034	14,848	14,075		
人口1000人あたりラジオ保有台数		台	21	24	25	24		
テレビ		台/1000	25	163	275			
人口1000人あたりテレビ保有台数		台	0.1	0.3	0.5			
電話普及台数(人口1000人あたり)		台	0.2	0.3	(*)0.3	(*)0.3		

\*1 資料：アフリカ電話電報会社

出所：国連

⑦ 水道、電気、住宅

項目	年	単位	1970	1971	1975	備考
浄水受給者の対人口比		%			33	
電灯普及率		%				
1部屋当り平均人員		人		2.8		

出所：国連

## II 経済技術協力

### (I) 開発途上国の援助受取高と債務

#### ① 開発途上国援助受取高

単位：100万ドル

事 項	1974	1975	1976	1977	1978
総受取高 Net	1,079.60	1,693.2	1,852.2	1,071.3	1,257.3
政府開発援助受取高 Net	1,122.60	1,708.6	1,820.6	1,128.4	1,284.8
(内) 二国間援助受取高 Net	602.15	819.7	725.3	481.6	670.2
技術協力受取実績 Net	57.30	94.29	171.52		

#### ② 政府開発援助の条件(コミットメント)

単位：100万ドル

事 項	1974	1975	1976	1977	1978
O D A 計				984.5	1,154.6
贈 与				520.8	750.9
借 款				463.8	403.8
借款のグラントエレメント(G・E)%				65.3	71.9
ODAのグラントエレメント(G・E)%				83.7	90.2

#### ③ 開発途上国の債務

単位：100万ドル

事 項	1975年末現在	1976年末現在	1977年末現在	1978年現在
1960~1977年贈与受取高(累計)	6,091	6,853	7,365	
直接投資残高	2,400	2,500	2,450	
債務(支払ベース)				
総 計	11,766	13,591	14,928	
DAC諸国政府開発援助に対する債務	7,274	7,216	8,105	
債務返済高				
総 計	860	841	935	
DAC諸国政府開発援助に対する債務	283	321	366	
債務返済率	17			

② DAC 諸国の経済協力

① 経済協力総額

単位：100万ドル

区分	国名	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
二 国 間 援 助 ( ネ ッ ト)	オーストラリア	3.6	5.6	0.2	1.9	7.0	14.0	6.5		
	オーストリア	1.3	*	-1.5	0.6	-0.4	16.4	2.8		
	ベルギー	-1.2	3.0	36.7	5.2	-2.9	24.9	-7.4		
	カナダ	114.4	114.0	73.5	55.5	109.2	108.5	57.3		
	デンマーク	2.5	3.5	5.0	2.9	4.1	4.5	7.8		
	フィンランド		0.7	0.2	-0.5	-0.2	*			
	フランス	5.0	13.9	13.6	61.2	19.2	54.6	30.8		
	西ドイツ	48.5	19.2	75.1	4.9	51.6	71.3	103.1		
	イタリア	-1.6	16.1	-9.7	22.8	-14.2	-35.7	-19.0		
	日本	37.7	14.9	8.1	54.8	55.5	49.7	71.3		
	オランダ	15.6	11.4	12.7	24.7	32.5	55.3	58.3		
	ニュー・ジージランド			0.4	0.2	0.2	0.7	0.4		
	ノールウェー	2.1	5.6	5.4	7.3	7.3	8.5	10.5		
	スウェーデン	6.2	9.1	9.3	7.9	47.4	83.4	100.9		
	スイス	-0.7	23.5	-0.2	-1.0	-0.6	12.6	0.4		
	イギリス	109.6	142.2	101.9	121.1	192.8	145.4	195.3		
	米 国	422.0	512.0	98.0	30.0	63.0	212.0	113.0		
計	765.0	894.5	418.9	399.5	571.5	818.1	732.0			
国 際 機 関 ( ネ ッ ト)	AF. D. B.									
	A. F. E. S. D.									
	AS. D. B.									
	CAR. D. B.									
	C. E. C.	4.2	10.8	19.5	5.9	49.4	99.5	12.2		
	E. I. B.									
	I. B. R. D.	-4.4	-8.2	-5.4	-9.6	-11.8	-13.2	8.1		
	I. D. A.	45.7	115.3	112.6	276.2	421.3	456.3	526.0		
	I. D. B.									
	I. F. C.	5.8	7.5	1.4	-1.5	-0.6	-2.9	2.9		
	O. A. P. E. C.									
S. A. A. F. A.										
U. N.	22.7	28.7	56.7	40.7	49.8	129.4	57.6			
計	74.0	154.1	166.6	311.7	508.1	669.1	606.8			
合 計	839.0	1,048.6	585.5	711.2	1,079.6	1,487.2	1,338.8			

③ 政府開発援助

単位：100万ドル

区分	国名	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
二 国 間 援 助 ( ネ ッ ト)	オーストラリア	3.6	5.6	0.3	2.0	7.1	14.0	6.6	8.5	
	オーストリア	1.2	0.1	-1.1	0.6	1.5	5.9	3.0	2.9	
	ベルギー	1.1	7.8	5.0	6.4	7.1	9.4	0.7	10.7	
	カナダ	105.8	104.8	70.4	54.8	112.6	109.3	66.9	36.8	
	デンマーク	2.6	3.7	3.7	4.0	5.2	5.6	7.9	14.0	
	フィンランド		0.7	0.2		*	*	*	*	
	フランス	15.2	25.5	24.1	32.0	19.8	36.0	40.9	26.7	
	西ドイツ	50.3	54.9	60.2	59.4	59.6	92.6	90.6	14.9	
	イタリア	5.5	-0.1	7.7	7.1	-0.7	-1.0	-1.7	20.2	
	日本	32.7	33.5	26.7	69.0	64.8	46.6	79.4	28.8	
	オランダ	15.6	11.4	12.7	24.7	32.5	55.3	58.3	71.3	
	ニュー・ジージランド			0.4	0.2	0.2	0.7	0.4	0.5	
	ノールウェー	2.4	4.6	5.8	8.0	7.8	8.9	9.6	15.2	
	スウェーデン	7.4	10.5	11.1	10.7	47.4	85.0	58.2	55.3	
	スイス	4.0	4.8	3.4	4.9	4.4	14.4	5.5	4.8	
	イギリス	86.7	126.0	110.8	88.9	141.7	113.8	163.9	186.9	
	米 国	418.0	454.0	104.0	84.0	91.0	225.0	135.0	64.0	
計	752.3	848.0	445.4	456.7	602.2	819.5	725.2	481.5		
国 際 機 関 ( ネ ッ ト)	AF. D. B.									
	A. F. E. S. D.									
	AS. D. B.									
	CAR. D. B.									
	E. E. C.	4.2	10.8	19.5	5.9	49.4	99.5	12.2	35.9	
	I. D. A.	45.7	115.3	112.6	276.2	421.3	456.3	526.0	352.1	
	I. D. B.									
	O. P. E. C.								21.8	
S. A. A. F. A.										
U. N.	22.7	28.7	36.7	40.7	49.8	129.4	57.6	73.2		
計	72.6	154.8	168.6	322.8	520.5	685.2	595.8	485.0		
OPEC (二機関)					235.0	203.7	495.6	113.8		
合 計	824.9	1,002.8	614.0	779.5	1,357.7	1,788.4	1,820.6	1,078.3		

③ 技術協力

単位：100万ドル

区分	国名	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
二 国 間 援 助 ( ネ ッ ト )	オーストラリア	0.5	0.7	0.3	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7
	オーストリア		*					0.1	0.2
	ベルギー	0.1	0.1	0.1	0.4	0.3	0.3	0.4	0.2
	カナダ	0.4	0.8	0.7	0.3	1.7	1.4	0.2	0.5
	デンマーク	0.4	1.4	1.6	1.2	2.3	2.4	3.0	5.0
	フィンランド					*	*	*	*
	フランス								
	西ドイツ	13.7	16.2	13.2	16.0	22.0	34.4	20.9	20.6
	イタリア	*	*		0.1	*	0.1	0.1	*
	日本	0.9	1.2	1.2	1.4	1.8	1.9	1.5	1.2
	オランダ	0.5	0.7	1.3	1.1	1.5	3.0	8.0	6.6
	ニュー・ジーランド			0.1	0.1	*	0.1	0.1	0.2
	ノールウェー	0.2	0.4	0.5	0.3	0.5	0.4	0.4	0.8
	スウェーデン	*	0.5	1.0	*		0.6	2.9	2.8
	スイス	*	*	*	*	*	*	*	*
	イギリス	2.1	2.8	2.9	2.7	2.7	5.5	2.8	3.9
	米 国	12.6	16.0	9.0	6.0	1.0	1.0	1.0	*
計	39.8	40.6	31.7	39.0	34.1	49.4	41.9	42.7	
国 際 機 関 ( ネ ッ ト )	A. F. E. S. D.								
	E. E. C.						*		
	I. D. B.								
	O. A. P. E. C.								
	S. A. A. F. A.								
	U. N.	15.5	18.3	18.6	17.4	23.2	45.0	28.3	34.3
計	15.5	18.3	18.6	17.4	23.2	45.0	28.3	34.3	
合 計	46.3	58.9	50.3	47.4	57.3	94.4	70.2	77.0	

(3) 共産圏諸国からの開発援助受取額

単位	1954年～1971年	1972	1973	1974	1975	1976	1977
100万 ド ル	1,830		500		32		

④ 政府貸付

単位：100万ドル

区分	国名	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
二 国 間 援 助 ( ネ ッ ト )	オーストラリア								
	オーストリア	0.7	*	-1.1	0.6	1.5	3.9	2.9	2.7
	ベルギー	1.0	7.7	4.9	6.1	6.7	8.3	-0.5	9.9
	カナダ	55.4	60.2	61.9	43.2	68.4	35.9	18.7	19.2
	デンマーク	2.2	2.1	0.6	2.7	-0.2	-0.7	1.8	4.2
	フィンランド								
	フランス	15.2	25.5	24.1	32.0	19.8	34.0	36.0	26.7
	西ドイツ	31.0	32.7	38.4	29.0	56.6	51.6	67.9	-6.6
	イタリア	5.5	-0.2	7.7	7.0	-0.7	-1.1	-1.8	20.1
	日本	31.8	27.3	25.5	67.5	63.0	44.7	78.0	26.5
	オランダ	15.1	9.7	10.8	21.6	30.4	24.8	42.1	40.5
	ニュー・ジーランド								
	ノールウェー		0.8		-0.3				
	スウェーデン	4.7	9.8	5.7	4.9	36.4	36.5	8.8	2.4
	スイス	2.6	2.4	1.8	2.2	2.2	11.5	3.0	-30.0
	イギリス	80.6	121.5	97.1	86.3	139.0	95.9	-3.5	-22.3
	米 国	350.0	351.0	61.0	48.0	31.0	113.0	29.0	-34.0
計	575.8	650.5	538.4	350.8	434.1	460.3	282.4	59.3	
国 際 機 関 ( ネ ッ ト )	AF. D. F.								
	A. F. E. S. D.								
	AS. D. B.								
	CAR. D. B.								
	E. E. C.								
	I. D. A.	45.7	115.3	112.6	276.2	421.3	456.3	526.0	352.1
	I. D. B.								
	O. P. E. C.								
	S. A. A. F. A.								
	計	45.7	115.3	112.6	276.2	421.3	456.3	526.0	373.9
OPEC(二国間)					235.0	205.5	499.5	113.7	
合 計	621.5	765.8	451.0	627.0	1,090.4	1,120.1	1,307.7	546.9	

イ  
ン  
ド



(4) わが国の二国間経済協力

① 年別、援助形態別、経済・技術協力(DACベース)

単価：1,000ドル

イ ン ド	援助形態 曆年	政 府 開 発 援 助				その他政府資金及び民間資金の流れ			総 合 計	
		額		計	政府貸付	計	直接投資等	輸出信用		
		無償資金協力	技術協力							
	1960		602	602	15,601	16,203	998	1,614	2,612	18,815
	1961		210	210	23,016	23,226	4,221	3,938	8,159	31,385
	1962		594	594	8,068	8,662	- 24	22,574	22,550	31,212
	1963		514	514	31,962	32,476	714	11,192	11,906	44,382
	1964		596	596	34,864	35,460	56	44,923	44,979	80,439
	1965		750	750	52,480	53,230	131	13,994	14,125	67,355
	1966	1,993	840	2,833	46,615	49,448	2,233	6,886	9,119	58,567
	1967		535	535	39,732	40,267	2,542	26,284	28,826	69,093
	1968		576	576	64,106	64,682	826	9,616	10,442	75,124
	1969		1,060	1,060	32,830	33,890	80	- 9,030	- 8,950	24,940
	1970		920	920	31,810	32,730	260	4,740	5,000	37,730
	1971	5,070	1,180	6,250	27,290	33,540	1,260	- 19,890	- 18,630	14,910
	1972		1,180	1,180	25,490	26,670	610	- 19,170	- 18,560	8,110
	1973		1,440	1,440	67,540	68,980	10	- 14,240	- 14,230	54,750
	1974		1,760	1,760	62,990	64,750	170	- 9,440	- 9,270	55,480
	1975	10	1,880	1,890	44,720	46,610	15,370	- 12,240	3,130	49,740
	1976		1,460	1,460	77,980	79,440	350	- 8,490	- 8,140	71,300
	1977	1,120	1,210	2,330	26,460	28,790	- 1,930	3,420	1,490	30,280
	1978	480	1,790	2,180	42,580	44,760	120	13,580	13,700	58,460
	総 計	8,673	19,007	27,680	756,134	783,814	27,997	70,261	98,258	882,072

② 直接借款（1979年12月末現在）

No.	事項	根拠協定	金額 (百万円)	対 象	返済期間(年) (約は換算期間)	金利(%)	貸出機関	備 考	G・F (%)
	円借 款(第1次)	1958. 2. 4 交換公文	18,000	電力設備、船舶、プラント設備等	10 ( 3 )	5.75~6.25	輸 銀	タイド	
	円借 款(第2次)	1961. 8. 18 交換公文	28,800	プラント設備、機械	15 ( 5 )	6.0	輸・市銀	タイド	23.47
	円借 款(第2次追加)	1963. 5. 25 交換公文	5,400	プラント設備、機械	15 ( 5 )	6.0	輸・市銀	タイド	23.47
	円借 款(第3次)	1963. 10. 24 交換公文	23,400	プラント設備、機械	15 ( 5 )	5.75	輸・市銀	タイド	25.05
	円借 款(第4次)	1964. 9. 3 交換公文	21,600	プラント設備、機械及び部品、原材料等	18 ( 5 ) 15 ( 5 )	5.75 5.75	輸・市銀	協定総額の1/3 タイド 協定総額 2/3 タイド	26.81 25.05
	円借 款(第5次)	1965. 6. 25 交換公文	21,600	肥料工場計画、機械設備等	18 ( 5 ) 15 ( 5 )	5.75 5.75	輸・市銀	協定総額 1/3 タイド 協定総額 2/3 タイド	26.81 25.05
	円借 款(第6次)	1966. 12. 16 交換公文	15,290	肥料、ロール、農薬、工業用原材料等	15 ( 5 )	5.75	輸・市銀	タイド	25.03
	債 権 繰 延	1966. 12. 16 交換公文	907	円借款元本の繰延べ	10 ( 5 )	5.75~6.25	輸 銀		
	円借 款(食糧)	1967. 7. 14 交換公文	2,520	葉肥料	15 ( 5 )	5.75	輸・市銀	タイド	25.05
	債 権 繰 延	1967. 8. 29 交換公文	2,197	円借款元本の繰延べ	15 ( 5 )	5.5	輸 銀		26.59
	円借 款(第7次)	1967. 9. 5 交換公文	14,000	肥料、農薬、工業用原材料部品等	18 ( 5 )	5.5	輸・市銀	タイド	28.48
	債 権 繰 延	1968. 7. 25 交換公文	6,059	円借款元本の繰延べ	12 ( 3 )	4.0	輸 銀		29.96
	円借 款(第8次)	1969. 2. 14 交換公文	10,141	肥料、ロール、農薬等	18 ( 5 )	5.25	輸・市銀	タイド	30.15
	債 権 繰 延	1969. 7. 25 交換公文	7,041	円借款元本の繰延べ	12 ( 3 )	4.0	輸 銀		29.96
	円借 款(第9次)	1970. 2. 28 交換公文	9,158	ロール、鉄鋼、農薬等	18 ( 5 )	5.25	輸・市銀	タイド	30.15
	特 別 円 借 款	1969. 3. 6 交換公文	2,520	ピサカバトナム外港拡張計画等	18 ( 5 )	5.5	輸・市銀	タイド	28.48
	債 権 繰 延	1970. 7. 24 交換公文	9,148	円借款元本の繰延べ	12 ( 3 )	4.0	輸 銀	タイド	29.96
	円借 款(第10次)	1971. 4. 20 交換公文	9,140	ロール、鉄鋼、工業用原材料部品等	20 ( 7 )	5.0	輸・市銀	タイド	34.77
	特 別 円 借 款	1971. 4. 30 交換公文	5,544	キャンベイ湾海底石油開発計画	20 ( 5 )	5.25	輸・市銀	タイド	31.31
	債 権 繰 延	1971. 7. 27 交換公文	7,416	円借款元本の繰延べ	12 ( 3 )	4.0	輸 銀		29.96
	円借 款(第11次)	1972. 2. 1 交換公文	31,000	{ ロール、鉄鋼、工業用材料部品等 コタ及びブッチコリン肥料工場計画等	20 ( 7 )	4.75	輸・市銀	商品 (15,000百万円) プロジェクト (16,000百万円)タイド	36.59
	円借 款(第12次)	1973. 1. 26 交換公文	13,226	{ ロール、鉄鋼、工業用材料部品等 アクリル繊維工場計画等	25 ( 7 )	4.5	輸・市銀	商品 (10,226百万円) プロジェクト (13,000百万円)タイド	40.99
	債 権 繰 延	1973. 1. 26 交換公文	11,775	円借款元本の繰延べ	25 ( 10 )	4.0	輸 銀		47.20
	債 権 繰 延	1974. 1. 30 交換公文	14,978	円借款元本の繰延べ	25 ( 10 )	4.0	輸 銀		47.20
	円借 款(第13次)	1974. 1. 30 交換公文	7,022	ロール、鉄鋼、原材料等	25 ( 7 )	4.0	輸 銀	タイド	44.89
	円借 款(第13次)	1974. 3. 30 交換公文	11,000	パチンタ肥料工場	25 ( 7 )	4.0	輸 銀	タイド	44.89
	円借 款(第14次)	1975. 1. 31 交換公文	7,000	ロール、鉄鋼、工業用材料部品等	25 ( 7 )	4.0	輸 銀	タイド	44.89
	債 権 繰 延	1975. 1. 31 交換公文	12,143	円借款元本の繰延べ	30 ( 10 )	2.5	輸 銀		61.88
	円借 款(第14次)	1975. 3. 28 交換公文	11,000	パニバット肥料工場	25 ( 7 )	4.0	輸 銀	タイド	44.89
	債 権 繰 延	1975. 8. 22 交換公文	12,256	円借款元本の繰延べ	30 ( 10 )	2.5	輸 銀		61.88
	円借 款(第15次)	1975. 9. 12 交換公文	10,900	パチンダ・パニバット肥料工場に対する追加資金	25 ( 7 )	4.0	輸 銀	タイド	44.89
	円借 款(第15次)	1976. 3. 31 交換公文	7,000	鉄鋼、機械、肥料等	25 ( 7 )	3.5	基 金	LDCアンタイド	49.78
	債 権 繰 延	1976. 11. 30 交換公文	12,240	円借款元本の繰延べ	30 ( 10 )	2.5	輸 銀		61.88
	円借 款(第16次)	1977. 2. 18 交換公文	9,000	電気通信網整備計画	30 ( 10 )	3.5	基 金	LDCアンタイド	53.36
	円借 款(第16次)	1977. 2. 18 交換公文	10,000	鉄鋼、機械、肥料等	30 ( 10 )	3.5	基 金	LDCアンタイド	53.36
	円 借 款	1977. 8. 19 交換公文	20,060	商品援助	30 ( 10 )	3.5	基 金	商	53.36
	円 借 款	1978. 3. 22 交換公文	9,700	ロナガルジ・ナサガル水力発電所拡張計画 ロバイタン水力発電計画	30 ( 10 )	3.5	基 金	LDCアンタイド	53.36
	円 借 款	1978. 8. 4 交換公文	6,000	商品借款	30 ( 10 )	3.0		一般アンタイド	57.62
	円 借 款	1979. 6. 21 交換公文	20,000	スーラット肥料工場計画					
		1979. 12. 7 交換公文	6,200	ボンベイ沖海底油田開発					
	合 計								

イ  
ン  
ド

③ 無償資金協力（1979年9月末現在）公換公文ベース

① 一般無償協力

単位：100万円

年度	締結日	案 件 名	金 額
78	1978.9.22	防災施設建設等のためのセメント供与	500

② 文化無償協力

単位：100万円

年度	締結日	案 件 名	金 額
78	1978.12.21	教育、文化省考古局写真関係機材	28

イ  
ン  
ド

④ 債務救済

単位：100万円

締 切 日	金 額
79.3.17	2,900

⑤ 水産関係

単位：100万円

年度	締結日	案 件 名	金 額
78	79.2.16	漁業調査訓練計画	600

⑥ 食糧増産援助

単位：100万円

年度	締結日	案 件 名	金 額
78	79.2.16	肥 料	700

⑦ 拠出金、災害救済等

単位：100万円

年度	支出月日	内 容	金 額
78	1978.9.25	現金拠出（インド首相救済基金）洪水被害	100

④ 延払い信用枠（クレジット・ライン）

対象	成立年月	金額(百万ドル)	金利(年利)%	返済期間(月)	備考
キリブル鉄鉱山開発	58. 3	8	6.0	5	完了
第1次追加信用	58. 8	10	6.0	7	
パディラ鉄鉱山開発	60. 3	21	6.0	5	
第2次追加信用	60.12	21	6.0	2+8	
第1次搬移機械延払	62. 8	10	6.0	10	
第2次 "	64.10	7	6.0	10	
第3次 "	65. 7	10	6.0	10	

⑤ 技術協力（DACベース）

イ) 年別、形態別技術協力

単位：1,000ドル

年	研修員受入			留学生受入		専門家派遣			調査団派遣			協力隊派遣		研究協力	機材供与	その他	技術協力総経費	
	金額	人数		金額	人数	金額	人数		金額	人数		金額	人数				合計	内JICA分
		全体	JICA分				全体	JICA分		全体	JICA分							
1976	584.71	160	71	187.03	27	237.06	58	2	115.74	31	3	27.64	5	20.39	222.20	56.92	1,458.70	686.73
1977	524.00	137	55	215.00	26	171.00	25	2				50.00	3	67.00	15.00	166.00	1,208.00	317.00
1978	851.74	160	80	279.18	20	225.75	21	3	84.93	6	4	49.57	3	47.55	4.79	177.78	1,701.30	662.32
1979																		

ロ) 国際協力事業団技術協力実績（DACベース、1975年～1977年）

㊠ 事業形態別経費実績

単位：1,000円

年(暦年)	項目	合計	研修員受入	専門家派遣	調査団派遣	研究協力	機材供与	協力隊派遣(学生)	その他
1975		396,074	75,625	95,188	16,202	17,928	170,069	6,442	14,620
1976		203,649	82,038	23,212	13,745	2,394	63,800	8,197	10,263
1977		85,001	57,845	5,077	222		3,897	13,447	4,513
1978		139,398	94,569	4,955	17,360		1,009	10,432	11,073
1979									

㊡ 分野別研修員受入

年(暦年)	総人数	Planning & Administration		Public	Agriculture	Industry		Trade	Education	Health Services	Social Services	Multi-Sector Unspecified	Man-Months Total
		Public Administration	Economic Planning	Utilities		Construction	Others						
1975	72	12	5	5	22	11	5	1		7	4		206.4
1976	71	13	4	7	14	7	12	2	2	3	3	4	225.5
1977	55	6	5	7	3	13	11		1	1	4	4	136.4
1978	80	6	4	15	16	5	15	1		1	11	6	210.2
1979													

㉞ 分野別専門家派遣

イ  
シ  
ト

項目 年(暦年)	総人数	Planning & Administration		Public Utilities	Agriculture	Industry		Trade	Education		Health Services	Social Services	Multi-Sector Unspecified	Man-Months Total
		Public Administration	Economic Planning			Construction	Others		Teachers	Others				
1975	37		1		29		1			5				220.9
1976	2									2				4.0
1977	2										2			3.6
1978	3						1			2				4.8
1979														

㉟ 分野別調査員及び顧問派遣

項目 年(暦年)	総人数	Planning & Administration		Public Utilities	Agriculture	Industry		Trade	Education		Health Services	Social Services	Multi-Sector Unspecified	Man-Months Total
		Public Administration	Economic Planning			Construction	Others		Teachers	Others				
1975	4				4									2.8
1976	3									3				1.5
1977														
1978	4		4											1.3
1979														

㊱ 分野別協力隊派遣

項目 年(暦年)	総人数	Planning & Administration		Public Utilities	Agriculture	Industry		Trade	Education		Health Services	Social Services	Multi-Sector Unspecified	Man-Months Total
		Public Administration	Economic Planning			Construction	Others		Teachers	Others				
1975	4				3				1					12.8
1976	5				3				2					21.7
1977	3								3					26.5
1978	3								3					26.3
1979														

### Ⅲ 一般事情

#### ① 開発計画

- 第1次5カ年計画（1951～1955年）農業重点
- 第2次5カ年計画（1956/57～1960/61年）基幹工業重点
- 第3次5カ年計画（1961/62～1965/66年）
- 第4次5カ年計画（印パ戦争により実施が遅れ、69年4月から実施～74年3月）
- 第5次5カ年計画（74年4月より開始されたが最終年度をまたぎ中止）
- 第6次5カ年計画（1978/79～83/84年）

#### 基本政策

- (イ) 失業及び潜在失業の解消を図る
- (ロ) 最貧困層の生活水準の改善を図る
- (ハ) 貧困者に対する社会資本、社会福祉の充実
- (ニ) 経済成長（年平均4.7%）
- (ホ) 社会的公正、富、所得の公平な配分

#### ② 年間気温

ニューデリーにおける気温、湿度および雨量

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
月間平均 最高気温(°C)	21.1	24.3	30.6	37.1	41.2	40.2	35.1	33.6	33.7	33.3	28.8	23.1
月間平均 最低気温(°C)	7.3	9.4	14.8	21.4	26.7	28.7	26.9	26.1	24.3	18.5	11.4	6.8
月間平均 湿度①(%)	82	60	53	35	27	42	79	80	82	56	63	80
月間平均 湿度②(%)	49	32	27	21	16	25	71	68	71	37	42	57
月間雨量 (mm)	25.1	21.1	21.1	8.4	13.2	77.0	178.6	185.6	122.9	10.2	2.5	10.9

備考：①午前8時半 ②午後5時半

◎ ボンベイ地方 年間気温表

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平均気温	25	25	26	27	30	29	28	28	28	29	28	26
降雨量(mm)	10	15	10	7	20	520	640	390	250	140	30	10

イ  
ン  
ド

カルカッタの月別温湿度・降雨量

	平均気温		湿度		降雨量 24時間
	最高	最低	午前 8時30分	午後 1時30分	
1972	℃	℃	%	%	mm
4月	40.9	20.4	85	46	005.2
5月	40.0	28.3	94	58	—
6月	41.7	25.0	95	51	082.6
7月	39.4	24.1	97	63	292.3
8月	34.8	22.9	97	65	556.1
9月	35.1	23.7	95	59	238.6
10月	34.4	21.0	95	51	104.7
11月	32.5	17.5	76	48	000.0
12月	31.5	12.3	92	44	000.0
1973					
1月	32.8	10.5	96	46	000.0
2月	35.2	13.2	92	39	024.7
3月	37.5	15.5	96	33	068.3
4月	39.9	21.8	81	37	028.2
5月	36.5	21.2	95	63	319.1
6月	37.4	23.5	95	64	198.8
7月	34.8	24.4	95	69	221.3
8月	33.6	23.7	97	71	362.1
9月	34.2	22.9	97	73	387.6
10月	33.7	20.4	95	59	190.6
11月	32.0	15.6	96	56	044.1
12月	28.1	11.1	96	47	064.2

イ  
ン  
ド

マドラスにおける気温、湿度および雨量

	最高温度(湿度%)	最低温度(湿度%)	雨量(mm)
1月	29.1 (84)	20.8 (66)	10
2月	30.2 (79)	22.3 (67)	10
3月	32.2 (80)	23.4 (69)	15
4月	34.5 (77)	26.7 (76)	20
5月	37.9 (66)	28.2 (69)	18
6月	36.7 (61)	27.9 (58)	40
7月	36.4 (63)	27.0 (56)	70
8月	33.0 (77)	25.3 (70)	115
9月	34.2 (79)	25.5 (72)	100
10月	32.0 (84)	24.8 (76)	290
11月	29.3 (81)	22.1 (69)	310
12月	27.7 (81)	21.5 (71)	130

海外生活の手引

③ 労働事情

イ 労働人口	23,980万人	全人口に占める割合	36%
ロ 失業人口	約410万人	失業率	約1.7%
ハ 労働条件等			

近年労働争議が増大し、それが生産を停滞させる大きな原因となっていたところ、1975年6月非常事態が宣言されて以来、労働争議は禁止されていたが、1977年3月の新政権成立後再度頻発の傾向をみせている。

④ 祝祭日

- 1月 1日 Muharram (回教の祭)
- 1月 26日 Republic Day (共和制記念日)
- 3月 6日 Holi (ヒンドウ教の祭)
- 4月 3日 Ramanavami (ヒンドウ教の祭)
- 4月 8日 Mahavir Jyanti (ジャイナ教の祭)
- 4月 9日 Good Friday (キリスト教の祭)
- 5月 3日 Budda Purnima (仏教の祭)
- 8月 15日 Independence Day (独立記念日)
- 9月 5日 Janmastami (ヒンドウ教の祭)
- 9月 16日 Idul-Fitr (回教の祭)
- 10月 2日 Mahatma Gandhis Birthday (ガンジー生誕記念日)
- 10月 18日～21日 Dussehra (ヒンドウ教の祭)
- 11月 10日 Diwali (ヒンドウ教の祭)
- 11月 22日 Idul-Zuha (回教の祭)
- 11月 25日 Guru Nanaks Birthday (シク教の祭)
- 12月 25日 Christmas Day (キリスト教の祭)

注) なお各宗教による祭日は、毎年宗教暦が異なるため一定していない。

⑤ 条約関係

- 日印平和条約(1952年8月27日発効)
- 日印航空協定(1956年5月11日発効)
- 日印文化協定(1957年5月24日発効)
- 日印通商協定(1958年4月8日発効)
- 日印租税協定(1960年6月13日発効)
- 請求権解決に関する取極(1963年12月14日発効)
- 技術協力センター(農業普及)設置協定(1968年3月5日発効)
- 技術協力センター(第二次農業普及)設置協定(1968年12月13日発効)
- ダンダカラニア農業開発協定(1970年8月19日発効)
- 農業普及センター延長協定
- アラール及びスーラスト湖センター(1972年12月4日発効)
- コポリ及びマンディヤ湖センター(1972年12月5日発効)

⑧ 日本人学校

1978年5月現在						
地 域	小学生	中学生	合 計	教員・数	設 立 年 月	備 考
ニュー、デリー	44	2	46	6	昭和39年9月	
カルカタ	13	1	14	4	昭和41年6月	
ボンベイ	17	7	24	4	昭和41年5月	
マドラス	9	2	11	2	昭和50年6月	補習授業

⑨ 電気事情

地 域	周波数	相数	電 圧	配線数	電燈計の使用
Agra アグラ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	可 能
Ahmedabad アーメダバット	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Ajmer アジメル	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
	d.c.		230/460	2.3	
Aligarh アーリガール	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Allahabad アラハバード	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Amritsar アムリツァー	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Asansol アサンソウル	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Aurangabad アウランガバード	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Banaras バナールス	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Bangalore バンガロール	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Baroda バローダ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Bhopal ボパール	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Bhubaneswar ブハネスワール	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Bombay City ボンベイ・シティ	a.c. 50	1.3	{ 230/400 230/460 }	2.4	〃
	d.c.		300/600	2.3	〃
Bombay (Suburban) ボンベイ(郊外)	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Calcutta カルカタ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
	d.c.		225/450	2.3	〃
Chandigarh チャンディガール	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Cochin コチン	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Coimbatore コインバートル	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Coonoor クーヌール	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Cuttack クッタック	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
	d.c.		230/460	2.3	〃

Darjeeling ダージリン	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	可 能
Delhi, including New Delhi	a.c. 50	1.3	{ 230/400 230/410 }	2.4	〃
德里	d.c.		250/500	2.3	〃
Gauhati ゴウハーチ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Gaya ガヤ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
	d.c.		220/440	2.3	〃
Gwalior グワリオル	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Hyderabad ハイデラバード	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Imphal インパール	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Indore インドール	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
	d.c.		230/460	2.3	〃
Jaipur ジャイプール	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Jammu ジャムム	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Jamshedpur ジャムシェドプール	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Kandla カンドラ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Kanpur カンプール	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
	d.c.		220/450	2.3	〃
Kodaikanal コウダイカーナル	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Lucknow ラクノー	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
	d.c.		220/440	2.3	〃
Madras マドラス	a.c. 50	1.3	{ 230/400 250/440 }	2.4	〃
	d.c.		220/450	2.3	〃
Madurai マドウラ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Mettur メイッヅール	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Mussoorie ムスーリー	a.c. 50	1.3	220/380	2.4	〃
Mysore マイソール	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Nabha ナーバ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Nagpur ナグプール	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Naini Tal ナイニ・タル	a.c. 50	1.3	220/380	2.4	〃
Nangal ナンガール	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
New Delhi (see Delhi)					
Ootacamund オッタカムンド	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃
Patiala パチアラ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	〃



イ ン ド	Patna	パトナ	a. e.	50	1.5	{ 220/380 230/400 }	2.4	可能
			d. e.				220/440	2.3
	Poona	プーナ	a. e.	50	1.3	230/400	2.4	〃
	Puri	プーリ	a. e.	50	1.3	230/400	2.4	〃
	Rajkot	ラージコット	a. e.	50	1.5	230/400	2.4	〃
			d. e.				230/460	2.3
	Ranchi	ラーンチ	a. e.	50	1.3	230/400	2.4	〃
	Secunderabad	セカンダラバード	a. e.	50	1.3	230/400	2.4	〃
	Shillong	シロン	a. e.	50	1.3	230/400	2.4	〃
	Simla	シムラ	a. e.	50	1.3	220/380	2.4	〃
	Srinagar	スリナガル	a. e.	50	1.3	230/400	2.4	〃
	Tiruchirapalli	トリチノポリ	a. e.	50	1.3	230/400	2.4	〃
	Trivandrum	トリバンドラム	a. e.	50	1.3	230/400	2.4	〃
	Tuticorin	トゥチコリン	a. e.	50	1.3	230/400	2.4	〃
	Udaipur	ウダイプー	a. e.	50	1.3	230/400	2.4	〃
	Vellore	ベロー	a. e.	50	1.3	230/400	2.4	〃
	Vijayawada	バイヤーヤバダ	a. e.	50	1.3	230/400	2.4	〃
	Vishakhapatnam	バイサカパトナム	a. e.	50	1.3	230/400	2.4	〃
	Wardha	ワルダ	a. e.	50	1.3	230/400	2.4	〃

アダプター使用 可

インドネシア

インドネシア

1. 総括実績

(1) 形態別・年度別

形態	29-50		51		52		53		累 計	
	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)
1. 研修員受入れ	1,491,396	2,633(135)	328,027	224(2)	390,497	240(3)	397,501	276(11)	2,607,421	3,373(151)
2. 専門家・調査団	6,182,173	1,693	2,018,591	354	2,619,758	463	3,078,634	574	13,899,156	3,084
(1) 専 門 家	3,115,958	615	953,240	85	1,081,592	118	1,213,307	120	6,364,097	945
(2) 調 査 団	3,066,215	1,078	1,065,351	271	1,538,166	345	1,865,327	445	7,535,059	2,139
3. 協 力 隊										
4. 機 材 供 与	2,265,580		550,455		888,860		751,853		4,456,748	
5. そ の 他	58,100		51,017		60,831		74,893		244,841	
合 計	9,997,249		2,948,090		3,959,946		4,302,881		21,208,166	

インドネシア

(2) 形態別・分野別

形態	分 野																人数累計 (人)	経費累計 (千円)	
		農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉱 業	軽 工 業	化 学 工 業	公 益 事 業	運 輸	郵 政	厚 生	原 子 力	経 営 技 術	教 育	行 政			そ の 他
研 修 員 受 入		601(14)	191(13)	246(8)	116(3)	85(1)	203(3)	42	77	397(11)	220(27)	364(8)	27(27)	140(7)	57(7)	416	191(22)	3,373(151)	2,607,421
調 査 団 派 遣		461	30	559	41	132	41	39	103	276	36	43				167	211	2,139	7,535,059
専 門 家 派 遣		226	38	126	16	44	14		94	66	44	120		4	48	75	30	945	6,364,097
協 力 隊 派 遣																			
機 材 供 与																			4,456,748
そ の 他																			244,841
合 計																			21,208,166

2. 事業別実績  
研修員受入事業

インドネシア

年度	分野	計 (人)	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉄 業	軽 工 業	化学 工業	公益 事業	運 輸	郵 政	厚 生	原子 力	経営 技術	教 育	行 政	そ の 他	金 額 (千円)
29年度		15	3					7	1		1		2			1			
30 "		32 (1)	5	2	1(1)	5		5	1								8	5	
31 "		25		8				3			1		3				6	4	
32 "		32		7	2	2		1			15		2				3		
33 "		45 (6)	8	4		1	3	1	4		7	3	2	2(2)	2(2)	1	3	4(2)	101,083
34 "		42 (2)	2	7				2	1		8	1	9	2(2)		5	4	1	
35 "		231 (4)	14	17	6(1)	38	7	21		8	30	1	8		34(3)	8	17	22	
36 "		159(12)	39 (2)	17	5(2)	6		23	1	1	22(4)	5	5	3(3)	4	4	7	17(1)	
37 "		51 (3)	10	4	3	4		4	3		2	4	2	3(3)		1	11		
38 "		126 (5)	20	5	8	4		11	1		11(1)	11(2)	4		10	3	27(1)	11(1)	
39 "		62 (8)	17 (1)	4	7						8(1)	6(3)	3(1)		1	2	10	4(2)	29,228
40 "		115 (2)	22	9	7	2	7	14		2	13	11	5	2(2)	2	1	8	10	36,366
41 "		125 (1)	15	6	8	6		15	1	6	15	11	7	1(1)	13	1	11	9	42,526
42 "		138 (2)	17	9	4	6	5	15	2	3	19	17(2)	13		15	1	9	3	50,596
43 "		91(14)	13 (1)	10	6(3)	1	2	7	1	1	7	13(7)	12(2)		2		12(1)	4	48,350
44 "		151(16)	34 (4)	5 (1)	3	3	1	7		2	18(4)	5	33	4(4)	7		25(1)	4(2)	71,366
45 "		163 (9)	22	9	12(1)		8	6		2	14	7	37	4(4)	5(2)	3	29	5(2)	99,807
46 "		162(19)	32 (1)	6	3		4	4	2	5	14	14(5)	35(3)	5(5)	3	3	14	18(5)	99,539
47 "		221 (7)	35	5	15		2	9		6	56(1)	12(2)	28	1(1)	8	3	19	22(3)	163,528
48 "		205 (5)	47	3	16	4	8	12		4	23	16	29(1)		5	3	25(1)	10(3)	245,036
49 "		215 (7)	41 (1)	9 (2)	12	7	9	9(2)	4	4	24	9	24(1)		6	6	29	22(1)	242,562
50 "		217(12)	44 (2)	19 (8)	21	8	4	4	5	11	18	17(2)	23		3		33	7	256,678
51 "		222 (2)	35 (2)	13	26	8	6	5	6	8	16	14	28		6		48	3	326,348
52 "		240 (3)	48	4 (1)	31	4	8	7(1)	5	10	31	24(1)	20		7	4	34	3	390,497
53 "		274(11)	64	9 (1)	50	7(3)	11(1)	11	4	4	24	19(3)	30		7	7(3)	24	3	394,931
29～合計		3,359(151)	587(14)	191(13)	246(8)	116(3)	85(1)	203(3)	42	77	397(11)	220(27)	364(8)	27(27)	140(7)	57(3)	416(4)	191(22)	2,598,441

専門家派遣事業

年度	分野	計 (人)	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉄 業	軽 工 業	化学 工業	公益 事業	運 輸	郵 政	厚 生	原子 力	経営 技術	教 育	行 政	そ の 他	金 額 (千円)	
32年度		2					2													
33 "		4					4													
35 "		10	4				2	2								2				
36 "		13					3	2					8							121,016
37 "		8			2		3	3												
38 "		16	1				2					2	7			4				
39 "		1					1													34,234
40 "		4	1		1								1			1				21,241
41 "		1						1												14,510
42 "		3	1		1											1				17,432
43 "		25		3						12		1	1		2	1	4	1		27,900
44 "		16		4	6			2		3							1			33,421
45 "		36	2		2					8	13	8				1	1	1		60,754
46 "		57	6		10	8	3			9	10	6				2	1	2		192,245
47 "		47	4	3	10	6	4			10	5	2				1		2		204,638
48 "		60	7		6		2			13	12	6			1		1	12		379,117
49 "		61	11	4	9	1	1	1		22	5						3	4		465,432
50 "		64	2	1	24	1				16	9	3				2		6		535,194
51 "		46	6	5	16		6			1	7						4	1		572,191
52 "		67	6	4	25		11				1	10	1			2	7			670,916
53 "		44	3	2	9						2	6			1	18	3			568,528
32～合計		585	54	26	121	16	44	11		94	64	44	18		4	35	25	29		3,918,769

インドネシア

青年海外協力隊派遣事業

50年度																				895
51 "																				524
52 "																				968
50～合計																				2,387

機材供与事業

インドネシア

品	機 材 名	機 材 供 与 先	年度	機材供与経費(千円)
1	顕微鏡等医療器具	スリウイジャヤ大学医学部	39	1,303
2	顕微鏡等医療器具	ハサスディン大学医学部	39	1,463
3	野ねずみ駆除剤	農業省	40	1,760
4	鋳造用機材	メラウケ国営会社鋳造センター	45	1,871
	(同上46年度支出分)		46	134
5	地質調査用機材	地質調査所	46	4,019
6	河川観測用機材	水資源総局	47	6,939
7	テレビ放送機材	ジャカルタテレビ局	47	4,809
8	胃がん検診用機材	スラバヤ・エアランド大学	47	3,372
9	水資源観測用機材	水資源総局	47	12,790
10	心臓外科用機材	国立心臓研究所	47	3,639
11	モノクロ中継車	ジャカルタテレビ局	47	13,632
12	動力研究用機材	動力研究所	48	15,311
13	水資源機材	水資源総局	48	5,786
	(同上49年度支出分)		49	3,713
14	放送機材	情報省	48	4,013
	(同上49年度支出分)		49	13,125
15	水産関係機材	テガール水産プロジェクト	48	18,555
	(同上49年度支出分)		49	11,665
16	家族計画機材	保健省	48	400
	(同上49年度支出分)		49	14,509
17	公衆衛生研究機材	中央衛生研究所	49	3,128
18	潮流観測機材	運輸省海運総局	50	2,544
19	土質、地質調査機材	公共事業省	50	2,342
20	水理実験施設用機材	水資源総局	51	7,617
21	繊維機材	繊維研究所	51	14,022
22	気象観測機材	公共事業省水資源総局	51	5,583
23	かんがい用機材	公共事業省水資源総局	51	3,465
24	かんがい機材	公共事業省水資源総局	52	4,455

機材供与事業

№	機材名	機材供与先	年度	機材供与経費(千円)
25	土質実験機材	バンドン工科大学	52	19,957
26	かんがい計測用機材	公共事業省水資源総局かんがい局	53	9,566
27	鉱物研究用機材	鉱山省地質鉱山研究所	53	19,969

インドネシア

技術協力センター事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団		専門家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)		
				人数	経費	人数	経費				
				継続	新規	千円	千円				
漁業技術協力計画 協定等の種類：協定 署名年月日：44.7 協力期間：44.7～47.7 実施調査：44.4.20～ 1カ月 エバリュエーション調査： 47.1.15～10日間	本計画は昭和43年7月27日締結の「インドネシア諸島周辺水域における日本漁船及び沖縄漁船の操業に関する暫定取極め」にともなう漁業協力の一環として生み出され、「漁業についての研究および教育の分野における技術協力に関する日・イ両国政府間協定」により成立した。 協力分野は、インドネシア漁業総局において実施される、(1)水産教育、(2)漁撈、(3)水産物製造、(4)水産物保蔵加工の各分野の研究業務に対して協力を行うものである。	44	実施調査		7	3,000		4	5,848	130,641	
		45			1	...		2	19,053		
		46	エバリュエーション調査		2	732			16,882	16,430	
		47						※3		...	
スラウェシ工業職業訓練センター 協定等の種類：協定 (スラウェシ工業技術訓練センター設置協定) 署名年月日：49.2.7 協力期間：49.2～54.2 フォローアップ：54.2～ 55.2	インドネシアは同国の工業化の進展にともなう労働者の技能向上および工業化分散政策に基づきウジュン・パングンにおける職業訓練センター設置をわが国に要請してきた。これに対しわが国は、昭和47年10月に事前調査団、昭和48年5月に実施調査団をそれぞれ派遣した。その結果昭和49年2月に両国政府間でセンター協定が締結され協力が開始された。 協力分野は(1)職業訓練全般、(2)機械加工、(3)電気、(4)建築、(5)自動車整備、(6)板金、(7)溶接、(8)木工の各	47	事前調査		5	3,446					
		48	実施調査		6	3,522		2	4,846	2,116	
		49	巡回指導		(2)	(400)	2	3	31,794	81,601	
		50	巡回指導		2	1,082	5	5	54,654	159,779	
		51	巡回指導		2	1,169		5	84,359	6,247	
		52					7	6	116,195	35,206	151,401
		53	エバリュエーション調査		4	2,622	9		84,626	23,508	110,756

インドネシア

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)								
				人 数		経 費	人 数		経 費										
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円										
事前調査：47.10～ 実施調査：48.5.28～ 48.6.13 巡回指導：49.9.23～ 49.10.6 (インドネシア・スラ ウェシ工業職訓センタ ーおよびマレイシア MARA 職訓校および船 舶機関士養成計画の3 センターの巡回指導、 経費は1/3 アジア一般 参照)。 巡回指導：51.3.19～ 51.3.27 巡回指導：52.2.17～ 52.2.26	分野である。  [カウンターパート受入] <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td>年 度</td> <td>49</td> <td>50</td> <td>51</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>人 数</td> <td>7人</td> <td>6人</td> <td>7人</td> <td>6人</td> </tr> </table> 当センター協力は昭和54年2月当初目的を遂げ終 了した。但し電気分野の電子コース、木工分野及び建 築分野に関し、専門家派遣形式で以って55年2月迄 フォローアップを実施することになった。	年 度	49	50	51	52	人 数	7人	6人	7人	6人								
年 度	49	50	51	52															
人 数	7人	6人	7人	6人															



保健医療協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	主要機材	
				人 数		経 費	人 数		経 費			
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円			
パジャジャラン大学 歯学部 協定等の種類：R/D 署名年月日：46.8.9 協力期間：41.4~47.3 実施調査：46.7.21~ 46.8.12 国内協力機関： 東京女子医大	インドネシア国政府よりパジャジャラン大学歯学部 の口腔外科部門に対する協力要請があり、わが国は、 昭和41年度より東京女子医科大学助教授の今井忠治 口腔外科専門家を3年間派遣し、同部門に対する協力 を開始した。 また、昭和42年度より昭和45年度まで、歯科器 材等の機材を供与し、プロジェクト事業として協力を 実施した。 本プロジェクトのR/Dによる協力は昭和46年度 で終了した。	41					※ 1			3,750	歯科器材	
		42					1					
		43					1	2			5,090	口腔外科器材
		44					1				355	
		45					1	1				
		46	実施調査		(4)	(2,187)	1					
西部ジャワ中央総合病院 協定等の種類：R/D 署名年月日：42.7.11 協力期間：43.4~47.3 実施調査：42.6.22~ 42.7.12 国内協力機関： 神戸大学医学部	インドネシア国政府に対する医療協力事業の一環と して、バンドン中央総合病院に対して中央臨床検査施 設の設置、専門家の派遣およびインドネシア人医師の 日本における研修などの事業を当初の目的とした。 昭和43年度から昭和45年度までに、生理、化学、 微生物、血液、細菌等各検査に必要なガラス、麻酔、 泌尿器科用機材等の医療器材を供与し、また神戸大学 等へ研修員を受入れ、インドネシア人医師を育成する ことに努力してきた結果、生理検査室、血液検査室、 生化学検査室の3部門の運営ならびに体制の確立がな されたため、本プロジェクトは昭和46年度にてR/ Dによる協力を終了した。	42	実施調査		4							
		43						5			40,522	麻酔泌尿器科器 材、ガラス器具
		44						3	7		17,859	二素子心音計
		45						3	3		1,620	胸部外科器材
		46						3	1			
パーサハバダン病院心 臓外科部門 協定等の種類：R/D	昭和43年度より昭和44年度にかけ心臓外科医、 心臓外科機材据付などの医療専門家を派遣するととも に、心臓外科手術に必要な人工弁等の機材を供与した。	43					11			4,346	心臓外科手術 用人工弁	
		44						4		6,432		
		45										

インドネシア

保健医療協力事業

インドネシア

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団			専門家			機材供与経費 (千円)	主要機材
				人数		経費 千円	人数		経費 千円		
				継続	新規		継続	新規			
署名年月日：46.8.9 協力期間：43～44 および47 実施調査：46.7.21～ 46.8.12 国内協力期間： 神戸大学医学部		46	実施調査		(4)	(2,187)					
		47						Ⓐ 2	Ⓐ 1,858		
アンボン結核・マラリア対策 協定等の種類：R/D 署名年月日：44.2.20 協力期間：43.4～49.3 実施調査：44.1.30～ 44.2.21 国内協力機関：厚生省	インドネシア国政府は、アンボン島の医療事情改善の一環としてマラリア対策および結核対策の推進をわが国に申し入れてきた。 わが国は昭和45年度より結核に対する協力を進め結核対策専門家および衛生検査技師を派遣し、マルク州120万人を対象としたBCG接種等による予防および調査を実施し、乾燥ワクチン等の緊急機材を供与した。 また昭和47年度には、結核対策用機材として巡回診療用モーターボート等の機材を供与し、同分野への医療協力を実施した。 R/Dによる協力は昭和48年度をもって終了した。	43	実施調査		4				4,425	医薬品、外科器材	
		44							22,200	外科器材、発電機	
		45						4		2,529	医薬品
		46						2		11,952	B.C.G. ワクチン
		47								2,054	
		48								26,480	医療用X線装置
医療協力視察 調査期間：44.3.13～ 44.3.20 (8)	(インドネシア、ヴェトナム) アジア一般を参照のこと。	43	視察		(4)	(666)					
パーサハバダン病院胸 部外科部門 協定等の種類：R/D	昭和44年度において行われた打合せ結果にもとずいて、昭和45年度より専門家派遣、機材供与、研修員受入れを実施、これにより本格的協力に入った。	44						1	6,278	麻酔器材、肺機能検査器材	
		45						6	4,352	胸部外科用X線装置	

保健医療協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	主要機材		
				人 数		経 費	人 数		経 費				
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円				
署名年月日：46.8.9 協力期間：44～49.3 実施調査：46.7.21～ 46.8.12 国内協力機関： 財結核予防会、厚生省	昭和45年度は、結核診療所の塩沢正俊博士をリーダーとし、第1次チーム1名、第2次チームを国立療養所中野病院より2名、第3次チームを国立療養所東京病院より2名派遣するとともに、回診用X線装置、アイカ双胴型スピロメーター、硫酸カナマイシン等の機材供与を実施し、官民合同による協力を行った。	46	実施調査		(4)	(2,187)	2	3		20,695	X線装置		
		47						2	1,674	⑤ 373			
		48						① 1	① 968	⑤ 387			
		49						① 2	1,740	⑤ 317			
家 族 計 画 協定等の種類：R/D 署名年月日：44.10.14 協力期間：44.10～55.3 実施調査：44.10.4～ (1次) 44.10.15 実施調査：45.12.8～ (2次) 45.12.22 国内協力機関： 財家族計画国際協力 財団	昭和44年10月、医療協力実施調査団を派遣し、具体的な協力方式をR/Dに取り決め、インドネシア国の人口抑制政策のため、昭和44年度より機材供与を主体とした協力を開始した。 昭和47年には巡回広報車を供与し、家族計画のための宣伝普及に寄与した。 また、カウンターパートの養成を図るため、財家族計画国際協力財団が家族計画指導者セミナーを開催している。 本プロジェクトは、インドネシア国の家族計画5カ年計画の実施を側面的に支援することを目的とし、昭和48年度にて終了させる予定であったが、インドネシア政府の要望に応じて更に5カ年協力を延長して、第2次協力を昭和49年度より開始している。	44	実施調査 (1次)		5					16,133	自転車140台 自動二輪車		
		45	実施調査 (2次)		4					13,095	避妊器具		
		46								11,824	コンドーム		
		47								16,684	巡回広報車		
		48								7,634	広報用車輛		
		49								13,450	家族計画指導 用掛図		
		50								71,777	ビデオテープレコーダ ームビデオカメラ 避妊具		
		51				3	2,038		6	5,007	51,509	印刷機	
		52							1	10	18,158	74,513	ミニスタジオ 映写用フィルム
		53							2	3	12,813	64,206	35mmカメラ
ジャカルタ中央病院臨 床検査部門 協定等の種類：R/D 署名年月日：46.8.9 協力期間：47.4～50.3	昭和46年8月、医療協力実施調査団を派遣、これに基づき正式に協力方式等をR/Dに取り決めた。協力の内容は、臨床検査部門の整備のため、プロジェクト方式により、検査、治療、研究指導の分野で協力を実施するものである。	46	実施調査		4	2,187							
		47								16,727	定電圧装置		
		48							3	10,083	⑤ 540 7,882	万能自動分析 装置	
		49						2		10,695	⑤ 307 22,587	自動分析装置	

インドネシア

保健医療協力事業

インドネシア

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団			専門家			機材供与経費 (千円)	主要機材	
				人数		経費	人数		経費			
				継続	新規	千円	継続	新規	千円			
フォローアップ: 50.4～51.3	昭和47年度からは、臨床検査室整備のため、分光光度計分析機器等の機材を供与した。	50					2		6,026	① 1,242		
実施調査: 46.7.21～46.8.12 国内協力機関: 神戸大学医学部	R/Dによる協力は、昭和49年度をもって終了し、以後フォローアップ協力を実施した。											
特別事項に関する件	現地在任専門家傷害事件に関する派遣。	47					1		495			
医療機材修理班 調査期間: 48.12.2～48.12.22 (21)	(インドネシア、フィリピン、ヴィエトナム) アジア一般を参照のこと。	48	機材修理		(5)	(1,888)						
中央生物学医学研究所 協定等の種類: R/D 署名年月日: 50.3.13 協力期間: 50.4～55.3 フォローアップ: 実施調査: 50.2.28～50.3.15 計画打合せ: 52.2.22～52.3.4 計画打合せ: 53.6.20～53.6.30 機材整理: 54.1.15～54.1.28 国内協力機関: 国立予防衛生研究所	インドネシア政府から、検査、検定および管理技術の指導等の協力要請があり、これに対してわが国は昭和49年度医療協力基礎調査団を派遣して、新規プロジェクトを発掘する目的で調査、打合せを実施した。この結果にもとづき同年度医療協力実施調査団を派遣し、正式に協力する旨、協力事項等をR/Dに取り決めた。これにより昭和50年度よりプロジェクト方式で協力することになった。 協力の内容は、インドネシア国保健省の付属機関に対する細菌製剤の標準化ならびにウイルス研究事業強化のための協力の実施である。	49	実施調査		5	2,844						
		50	(同上50年度支出分)			434		3	1,472	① 51 3,523	ワクチンアンブル自動容封機	
		51	計画打合せ		3	1,706		6	23,559	59,617	ワクチンアンブル自動容封機	
		52				73		1	7	17,561	102,092	凍結乾燥機
		53	計画打合せ		3	2,032		1	9	23,163	34,570	実験動物用飼育箱遠心機
		53	機材修理		3	3,319						

保健医療協力事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団		専門家		機材供与経費 (千円)	主要機材
				人数		経費			
				継続	新規	千円	千円		
医療協力基礎調査 調査期間：49.9.18～ 49.10.3 (16)	昭和49年から開始する第二次5カ年計画の一環として、インドネシア国政府はわが国に対し、医療保健部門で10数件の新規案件について技術協力を要請してきた。 本件調査は、これに応え、ウイルス細菌部門を中心に協力の可能性について調査をするものである。	49	基礎調査		4	2,543			
臨床検査プロジェクト 巡回指導 調査期間：49.11.12～ 49.11.30 (19)	(インドネシア、フィリピン、ヴィエトナム) アジア一般を参照のこと。	49	巡回指導		(4)	(888)			
(大学教授)	(インドネシア、フィリピン) アジア一般を参照のこと。	50					(大)3	(大)(1,115)	(大)(126)
医療機材修理班 調査期間：51.3.30～ 51.4.16 (18)	(インドネシア、フィリピン) アジア一般を参照のこと。	50	機材修理		(5)	(2,323)			
医療協力事前調査 調査期間：51.12.6～ 51.12.23 (18)	(インドネシア、フィリピン) アジア一般を参照のこと。	51	事前調査		(5)	(2,077) (124)			
パーサハバダン病院 (特別機材) 協定等の種類：なし	単独医療機材供与	51							2,060 気管支ファイ バースコープ

インドネシア

保健医療協力事業

インドネシア

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家			機材供与経費 (千円)	主要機材		
				人 数		経 費		人 数			経 費	
				継続	新規	千 円	千 円	継続			新規	千 円
北スマトラ地域保健対策 機定等の種類：R/D 署名年月日：52.10.10 協力期間：53.4~58.3 実施協議：52.2.29~ 52.10.11 国内協力機関： 東京大学医科学研究所	昭和51年12月の事前調査団の報告結果に基づき 地域住民の保健衛生水準向上のための伝染病対策及び ラボラトリーサービスを中心とする協力を目的とし、 52年10月R/Dを署名した。	52	実施協議		5	3,655		3	2,289	520		
		53				225		6	17,672	49,612	デープフリー ザー発電機	
看護教育関係	(インドネシア、タイ) アジア一般を参照のこと。	52	事前調査		(5)	(1,817)						
看護婦養成(単発)	家族計画視聴覚ソフトウェア開発	52						2	2,148			
保健医療協力事情調査	(インドネシア、マレーシア、タイ) アジア一般を参照のこと。	52	事情調査					(5)	(1,842)	(6)		
医療機材	(インドネシア、フィリピン) アジア一般を参照のこと。	52	管理指導		(4)	(1,786)						
医療機材	(インドネシア、フィリピン) アジア一般を参照のこと。	52	修理指導		(5)	(3,969)		1				
(大学教授)	胸部外科学会参加 52.8.4~52.8.14	52						①	713	258		
看護教育協力 協定等の種類：R/D 署名年月日：53.11.3 協力期間：53.11~ 58.11 実施調査：53.10.22~ 53.11.4	昭和52年7月に派遣した看護教育関係事前調査団 の報告結果に基づき、看護教育のためのカリキュラム の確立、教材の開発及び、教育方法論の確立を図るこ とを目的とし、53年11月R/Dを署名した。	53	実 施		4	3,135						

保健医療協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	主要機材
				人 数		経 費	人 数		経 費		
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円		
国内協力機関： 厚生省、国際看護交 流協会											
(大 学 教 授)	病 理 学 (保健省) 53.9.10～53.9.16	53					⊕ 1	483			

インドネシア

農林業協力事業

インドネシア

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団		専門家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)		
				人数		経費						
				継続	新規	千円	継続	新規			千円	
西部ジャワ食糧増産協力協定等の種類：協定 署名年月日：43.5.29 協力期間：43.5～46.5 協定等の種類：協定 (延長) 署名年月日：46.5 協力期間：46.5～49.5 実施調査：42.8.20～ 42.9.26 巡回指導：44.2.13～ 44.3.5 実施設計調査： 45.10.28～45.12.26 巡回指導：46.5.30～ 46.6.23 巡回指導：48.3.11～ 48.3.31 巡回指導：48.11.25～ 48.12.8 49.1.30～49.2.28 エバリュエーション調査： 49.10.23～49.11.12	インドネシア政府の食糧増産計画(BIMAS計画)食糧自給達成、米の輸入解消を目標)推進のための協力要請に基づき、昭和42年8月に9名の調査団を派遣し、インドネシア政府の農業重点施策に対する協力につき実施調査を行なった。この結果をもとに昭和43年5月29日に協力期間3カ年の協定を締結し、同年9月に専門家5名を派遣するとともに、昭和43年度から昭和46年度に至るまで、所要資機材を供与し次の3計画に協力した。 a ボゴール(Bogor)のムアラ(Muara)試験地における水稻優良種子の生産、検査および普及に対する計画 b スカマンデー(Sukamandi)国営農場およびジャカルタ郊外のパッサルミング(Pasar Minggu)の農機具部における農業機械化に関する訓練計画 c チャンジュール(Cianjur)のチヘア(Cihea)州営農場における水稻の生産技術、農業機械化、小規模土地改良整備、農業協同組合活動、水稻種子生産計画等の指導助言 昭和46年5月に協定延長後の実施方針を明らかにするため巡回指導調査団を派遣し、その結果、一定地区を対象とした稲作開発の全過程にわたるモデルの開発と西部ジャワ各県の普及事務所を通じて、農民の段階にまで届くような農業開発という点と面の結合した形の協力が最も必要であるとの結論に達し、昭和46年5月から更に3カ年協定が延長され、10名の専門家の下に新たに次のような協力が実施された。	42	実施調査		外 9-1(1)	6,192				6,192		
		43	巡回指導		5	2,837		5	13,741	91,246	107,824	
		44				⊕ 343		5	18,502	12,159	31,004	
		45	実施設計		10	22,071		5	20,173	12,742	54,986	
		46	(同上報告書)			⊕ 858					} 54,281	
		46	巡回指導		6	⊕ 303 3,287		5	4	28,866		20,967
		47	巡回指導		5	⊕ 126 2,569		7	3	41,113	31,877	75,685
		48	(同上報告書)			⊕ 149					} 78,030	
		48	巡回指導		5	⊕ 97 2,983		10		51,517		23,284
		49	エバリュエーション調査		5	⊕ 84 2,729		10		25,200	2,998	31,011
50				⊕ 39		2	2	25,579	⊕ 284 9,170	35,072		
51				⊕ 241		2		4,982	5,685	10,908		



農村業協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)
				人 数		経 費	人 数		経 費		
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円		
	<p>a 農道、灌漑排水等の基盤整備を行った中で、近代的稲作栽培の全過程にわたる指導および展示を行うチヘヤ・タニ・マムール計画</p> <p>b 西部ジャワ州の米の主要生産7県における普及員および選抜農民を対象として在米農法の中で生かされる稲作栽培の指導および展示を行う普及圃場計画</p> <p>c 西部ジャワ州内の政府関係技術職員から第一線の普及員および一部選抜農民を含めた稲作栽培、種子技術および農業機械化に関する理論、実際面両面のトレーニング計画</p> <p>48年12月に派遣した計画打合せ調査団は49年5月協定終了後はプロジェクトのインドネシア人カウンターパートへの引継ぎ体制の確立および生産組織の農業協同組合への移行に対する協力を行うため2年間のアフターケア協力を続行することを取極めた。</p>										
<p>農業研究協力協定等の種類：協定（食用作物共同研究の実施に関する協定）</p> <p>署名年月日：45.10.23</p> <p>協力期間：45.10～50.10</p> <p>協定等の種類：交換公文（同上協定有効期間延長交換公文）</p>	<p>昭和45年10月23日に締結された協定にもとづき、インドネシア中央農業研究所（Central Research Institute for Agriculture）における植物病害および生理障害に関する研究を共同で実施してきたが、5カ年間にわたる協力期間の満了をひかえ、昭和50年6月、エバリュエーション調査団を派遣し、日・イ双方で本計画の進捗状況および評価を行うとともに今後の取扱いを検討の結果、さらに3カ年の協力延長を確認し、同年10月協力期間の延長を行った。</p> <p>本協力は</p>	44	事前調査		3	5,268				5,268	
		44	実施調査		6						
		45	（同上報告書）			⊕ 224					37,473
		45				⊕ 357		3	3,700	33,192	
		46				⊕ 76	3	4	23,707	30,948	
		47	巡回指導		5	⊕ 365 2,940	7	1	24,614	29,242	57,161
		48				⊕ 379	5	4	33,095		33,474
49	巡回指導		5	⊕ 114 2,733	6	4	30,539	⊕ 41 60,511	93,938		

インドネシア

農村業協力事業

インドネシア

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)		
				人 数		経 費					
				継続	新規	千 円	千 円				
署名年月日：50.10.23 協力期間：50.10～53.10 事前調査：44.9.16～44.10.10 実施調査：45.2.26～45.3.25 巡回指導：48.1.29～48.2.17 巡回指導：49.11.13～49.11.27 エバリュエーション調査：50.6.8～50.6.21 巡回指導：52.11.17～52.12.7 エバリュエーション調査：53.7.6～53.7.25 エバリュエーション調査：53.10.5～53.10.14	1. 主要病害の生態防除 2. 主要病害の発生予察およびウイルス媒介昆虫 3. 生理障害および主要病害の生理の3テーマからなり、チームリーダーと中央農研所長との間で協議のうえ、この3テーマを44の研究課題に細分化して実施されている。 なお、対象作物は、米、大豆、マングビーン、キャッサバ等である。 昭和52年度は協力最終年次の運営計画打ち合わせを行うとともに新たに要請のあった新プロジェクトについて予備調査を行い、あわせて本件の要請背景について「イ」政府と協議した。 昭和53年7月に実施したエバリュエーション調査の結果、新農業研究協力プロジェクトに係るR/Dについて「イ」側関係機関と協議を行い、最終討議と合意書署名及びプロジェクト開始までのスケジュール調整等の協議を実施した。	50	エバリュエーション調査		7	③ 301 3,685	4	8	44,172	③ 1,753 2,294	52,205
		52	巡回指導		6	4,915	7	3	61,332	49,695	115,942
		53	エバリュエーション調査		8	7,257	5	15	60,879	106,084	174,220
タジュム地区農業開発協力 協定等の種類：協定 署名年月日：46.2 協力期間：46.2～49.2 協定等の種類：協定（延長） 署名年月日： 協力期間：49.2～51.2	昭和46年2月の協定の締結、同年9月の専門家の派遣（6名）を契機として開始された本計画に対する技術協力は昭和49年2月に協定の延長を行い、昭和51年2月所期の目的を達成し終了した。 本計画はインドネシア政府が経済開発5カ年計画の一環として、アジア開発銀行からの融資を受け、中部ジャワ州パニュマス県タジュム地区において実施した約3,200 haの水田灌漑事業区域のほぼ中央に220 haの稲作開発パイロットを設立し、かんがい事業による	44	事前調査		5	11,011					11,011
		44	実施設計調査		11						
		45	（同上 内作業）			5,708					5,708
		46	（同上 報告書）			819					819
		46	計画打合せ		4	③ 331 1,452		6	15,035	51,352	68,989
		47	巡回指導		5	③ 161 7,527	6		24,777	30,997	
48	エバリュエーション調査		5	③ 782 3,408	6		23,497		27,687		

農村業協力事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団		専門家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)			
				人数		経費						
				継続	新規	千円	千円					
予備(事前)調査: 44.10.4~44.11.7 実施設計調査: 45.2.26 ~45.3.28 計画打合せ: 46.6.24~ 46.7.10 巡回指導: 47.12.3~ 47.12.13 エバリュエーション調査: 48.7.16~48.8.8 エバリュエーション調査: 50.10.14~50.10.30	地域農業の開発を目的とした。その具体的協力内容は以下のとおりである。 ① 用排水路、農道の設計と建設 ② プロジェクト地域の農民および職員に対する有効な水管理に関する技術的助言 ③ 農業技術の改良と進んだ多毛作栽培技術の普及 ④ パイロット地域の関係職員及び key farmer の訓練 ⑤ パイロット地域の農民組合活動の指導	49			86	4	2	16,442	31,562	48,090		
		50	エバリュエーション調査		4	136 5,138	4	1	17,042	4,610	26,926	
		51								1,684	1,684	
ランボン農業開発協定等の種類: 協定 (ランボン農業開発への技術協力に係る協定) 署名年月日: 47.11.14 協力年月日: 47.11~ 52.11  基礎調査: 46.8.22~ 46.9.21 実施設計調査: 47.9.1~ 47.10.15 巡回指導: 50.2.12~ 50.3.4 巡回指導: 51.3.4~ 51.3.20 巡回指導: 52.10.6~ 52.10.14 エバリュエーション調査: 52.6.7~52.6.30	ランボン農業開発プロジェクトは、3つのサブプロジェクトより成り立っている。 1. 農業普及センター: 資料の収集分析及び情報提供、技術指導及び助言、近代農業技術の圃場試験及び演示、普及員及び Key Farmer の訓練、優良種子の増殖、配布 2. 低地農業開発: 中部ランボン州における10の郡の低地農業地域において、100 ha のラージ・デモファーム及び約5haのスマール・デモファームを40ヶ所設置して、稲作を主とする低地農業の普及の基礎とする。 3. 高地農業開発: 中部及び南部ランボン州の高地農業地域において、とうもろこし、豆類、キャッサバ及び多年生作物を対象とした開発を実施する。面積は、5,000 ha とし、100 ha 毎に試験区(0.3 ha)を設置する。 上記2、3のサブプロジェクトにおいて、改良農業	46	事前調査		10	9,569					9,569	
		47	(同上報告書)			815					52,902	
		47	実施設計調査		9	693 21,401	2	1	657	29,336		
		48					379	6	7	28,165	85	28,629
		49	巡回指導		6	409 3,433	13	5	53,585	1,608 53,088	112,123	
		50	(同上報告書)				265				144,804	
		50	巡回指導		4	296 2,895	10	3	75,793	65,555		
		51	(同上報告書)				447	7	2	80,508	736 104,298	186,246
		51					257					
		52	巡回指導		(1) 3							
		52	エバリュエーション調査			6	7,378	5	1	42,872	164,408	214,658
53	巡回指導			5	4,843	6	5	82,755	153,261	240,859		

インドネシア

農村業協力事業

インドネシア

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)	
				人 数		経 費	人 数		経 費			
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円			
巡回指導：52.12.6～ 52.12.14 巡回指導：53.10.19～ 53.11.7	技術の普及、改良栽培技術について農民の指導、訓練、農民グループの組織化及び強化、農業資材、農産物の分配組織、農業信用組織の促進等を指導する。 昭和52年11月協定を3ヶ年延長し、プロジェクト対象区域を全ランボン州に拡大した。											
養 蚕 開 発 協 力 協定等の種類：R/D (インドネシア養蚕開発の技術協力に係る討議事録) 署名年月日：51.3.30 協力期間：51.3～52.9 事前調査：49.3.5～ 49.3.25 事前調査：49.10.3～ 49.10.12 実施計画調査：50.11.20 ～50.12.4 計画打合せ：51.3.17～ 51.3.31 実施設計調査：51.7.29 ～51.9.6 計画打合せ：52.3.14～ 52.3.23 巡回指導：53.3.7～ 53.3.22 巡回指導：53.11.14～ 53.11.26 (アジア一般を参照のこと)	インドネシア国は豊富な労働力の雇傭機会及び農民の現金収入の機会の増大をはかるため、我が国に養蚕開発を要請してきた。我が国は、これに応え、昭和49年3月および同年10月の2回にわたり、予備(事前)調査団を派遣するとともに、3名の長期調査員を派遣して、プロジェクト創設の調査をすることになった。この長期予備調査の結果、協力対象地域、規模等が策定されたため、昭和50年11月より実施計画調査団を派遣してインドネシア国政府と協議を行った。また昭和51年3月には、計画打合せ調査団が派遣され、R/Dがとりまとめられた。この結果、当面1年6ヶ月の期間、R/Dにより南スラウェシを中心に次の協力をを行い、その後、協定協力を予定する。 1. 養蚕センター及びサブセンター設置のための準備 2. 標準的養蚕技術確立のための準備 3. 高収量性蚕種の製造と配布 4. インドネシア人技術者の訓練	48	事前調査		5	2,857					2,857	
		49	事前調査		4	1,803		2	1,521			3,324
		50	実施計画調査		5	⑤ 17 5,472		2	1	22,277	⑤ 4,002	} 33,636
		50	計画打合せ		4	1,918						
		51	実施計画調査		8	⑤ 396 24,780		1	6	54,477	⑤ 2,529 49,941	} 133,817
		51	計画打合せ		3	1,694						
		52	巡回指導			(4)	1,546		5	2	55,224	165,195
53				(3)	(1,350) 2,155		4	8	127,464	44,424	(1,350) 174,043	

農村業協力事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団			専門家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)	
				人数		経費	人数		経費			
				継続	新規	千円	継続	新規	千円			
東南アジアかんがい計画基準作成調査 調査期間：48.10.29～ 48.11.24 (27)	(インドネシア、ラオス、フィリピン、タイ) アジア一般を参照のこと。	48	基礎調査		(8)	(2,040)					(2,040)	
ボゴール農科大学・農産加工パイロットプラント協力 協定等の種類：R/D 署名年月日：52.10.14 協力期間：52.10～ 54.10	インドネシア共和国ボゴール農科大学は、同国における最高の農業関係単科大学であるが、6学部の一つである農業工学・農産加工学科は、教官の陣容、施設が不十分であり、今後増大する人材への需要に対応することが困難である。 このような事情にかんがみ、同国は国民栄養水準の引上げ、農産加工の促進の要となる同大学の人材の養成、施設の強化拡充を計画し、これに対する援助を求めている。 事業団は、これに応じて上記計画の背景、同大学の現状と将来計画等を調査することとし、昭和51年3月28日から同年4月11日まで5名からなる事前調査団を同国へ派遣した。 その結論は次のとおりである。 ① 本計画はインドネシア共和国の重要な政策である国民栄養水準の向上、一次産品加工と輸出の振興に沿うものであり、関係各省ともきわめて強い関心を示している。 ② 同国の農産物加工の現状はなお発展途上にあり、新たに開発を要する部分、改善を要する分野もきわめて多い。 ③ また、ボゴール大学農産加工学科の人材および施	50	事前調査		5	3,211					3,211	
		51	(同上報告書)			⊕ 384						384
		52	実施調査		6							
		52	計画打合せ		3	5,788		2	1,570	32,267		39,625
		53	巡回指導		4	2,565		5	38,050	52,906		93,521

インドネシア

農村業協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)			
				人 数		経 費		人 数			経 費		
				継続	新規	千 円		継続			新規	千 円	
	<p>設は不十分であり、その強化拡充は緊要である。</p> <p>④ 調査の結果を日本国政府その他の関係者に十分説明し、早急な実施調査の派遣と本プロジェクトの実現に努めることが望ましい。</p> <p>昭和52年10月R/D取り決めをし、53年度は、プロジェクト運営上、技術上の問題点を解明するとともに、54年度計画について討議した。</p>												
<p>南スラウェシ農業開発協力 協定等の種類：R/D (南スラウェシ地域農業開発計画の技術協力に係る討議議事録) 署名年月日：51.5.4 協力期間：51.12~54.6</p> <p>予備調査：50.11.26~50.12.12 実施計画調査：51.4.26~51.5.7 計画打合せ：52.6.22~52.7.9 巡回指導：53.7.30~53.8.9 エバリュエーション調査：54.3.1~54.3.17</p>	<p>農業省大臣官房計画局にアドバイザー1名、南スラウェシ州にある農業省代表部に専門家4名、計5名を派遣し、</p> <p>1. 南スラウェシ州地域農業に関する調査及び分析 2. 南スラウェシ州地域農業開発基本計画の検討及び勧告 3. 上記基本計画に即した部門別の農業開発計画の策定 4. 上記基本計画及び部門別計画に即した二特定県における農業開発事業の実施計画の策定</p> <p>を行うと同時に、計画作成担当者の訓練を行い、地域農業開発計画に関するテクノロジーをインドネシア政府計画作成担当者に移転することを目標としている。</p> <p>昭和53年度には、当初目標に関する効果測定を行うと同時に、①望ましい方向の提示、②本プロジェクト終了後の基本構想のとりまとめ、③地域計画策定マニュアルを作成した。</p>	50	予備調査		4	実 27 2,954					2,981		
		51	実施計画調査		5	実 792 4,521		5	42,961	機 2,261 8,828		59,363	
		52	計画打合せ		3	4,918	5	10	55,862	59,468		120,248	
		53	巡回指導		3								
		53	エバリュエーション調査		5	9,768	6	11	75,809	11,252		96,829	

インドネシア

農村業協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)	
				人 数		経 費	人 数		経 費			
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円			
家畜衛生協力 協定等の種類：R/D 署名年月日：52.7 協力期間：52.7～55.7	家畜衛生は畜産発展の基盤であるが、インドネシア国においては、家畜伝染病、防疫の不備に起因する家畜の損耗が著しい。 本協力においては、 1. スマトラ島での家畜疾病とくに伝染病の診断 2. 地域における問題疾病の調査と防疫 3. 伝染病防疫の立案と実施 4. 衛生技術の指導、普及と技術者の養成、訓練等 が事業の中心になると考えられる。また、昭和51年6月22日から25日間、4名からなる事前調査団が派遣され、インドネシア国における家畜衛生の実態を把握するとともに、技術協力の可能性を調査し、協力の基本方針が策定された。 昭和52年現地調査を通じR/Dの署名を行った。 議事録による協力はメダン及びタンジュンカランの家畜衛生研究センターでの ① 家畜伝染病の調査、診断、試験及び防疫 ② 動物用生物学製剤の試作 が計画されている。	51	事前調査		4	4,050		2	4,353	④ 3,976	12,379	
		52	実施協議		5							
		52	計画打合せ		3	11,287		2	32,066		46,653	90,006
		53	巡回指導		(4)	(1,653) 684		3	3	41,210	56,617	(1,653) 98,511
農林総合開発 53.3.6～53.3.25	(インドネシア、フィリピン) アジア一般を参照のこと。	52	基礎調査		(5)	(2,319)			(124)		(2,443)	
		53	々		(5)	(8,885)					(8,885)	
農業協力プロジェクト 協力効果測定手法開発 調査 調査期間：53.2.13～ 53.3.4	(インドネシア、マレーシア、フィリピン) アジア一般を参照のこと。	52	開発基礎 調査		(5)	(2,271)					(2,271)	

インドネシア

農村業協力事業

インドネシア

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)
				人 数		経 費	人 数		経 費		
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円		
農業普及協力計画 調査期間：52.11.21～ 52.12.15	(フィリピン、インドネシア、タイ) アジア一般を参照のこと。	52	計画基準 作成調査		(8)	(5,636)					(5,636)
農業普及プロジェクト 調査期間：54.1.22～ 54.2.10	本調査は農業技術者普及協力プロジェクトについて 協力効果の測定及び評価方法に関する基礎的調査を実施 するものであり、52年度実施作業でとりまとめられ た素案を「タジウムパイロット計画・ランボン農業 開発計画」を事例対象とし、その適用性につき調査を 行った。	53	基礎調査		5	20,042					20,042
ジャワ山岳林収穫技術 協定等の種類：R/D 署名年月日：52.12.3 協力期間：53.4～ 56.4 実施設計：53.5.7～ 53.6.15	本プロジェクトは「イ」国ジャワ山岳林における森 林伐採技術の移転を目的とし52年12月3日R/D を取りかわした。昭和53年度は調査設計を実施した。 なお本件は52年度開発技術協力費(産業開発協力費) により事前調査を実施した。 (産業開発協力の欄参照のこと)	53	実 施		6	20,989		8	83,443	83,540	18,972
中堅技術者研修計画調 査 実施協議：53.11.30～ 53.12.19 計画打合せ：54.2.22～ 54.3.31	「イ」国における農業普及活動及び組織の現状を把 握するとともに本件協力の基本方針について協議を行 った。	53 53	実施協議 計画打合せ		5 3	4,899					4,899
農業開発リモート・セ ンシング技術協力計画	「イ」政府は外領、特にスラウェシ、カリマンタン 及びスマトラ農業開発を行うため、農業適地の調査及	53	事 前		5	2,680					2,680



農村業協力事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団		専門家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)	
				人数		経費				
				継続	新規	千円	千円			
事前調査：53.11.27～ 53.12.8	び情報収集をリモート・センシング技術により実施すべく日本政府に要請してきた。これを受け、協力に必要な資料収集、打合せ等、事前調査を実施した。									
モデルインフラ整備事業 巡回指導：53.4.25～ 53.5.24	(バングラデッシュ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ) アジア一般を参照のこと。	53	巡回指導		(3)	(885)			(885)	
浅海養殖 巡回指導：53.8.19～ 53.8.30	本件は産業開発協力事業にて実施している浅海養殖プロジェクト関連の巡回指導。	53	巡回指導		(1)	380	2	5,203	5,060	10,643
養蚕開発計画	(インドネシア、タイ) アジア一般を参照のこと。	53	巡回指導		(3)	(1,350)				

インドネシア